

2

徳・知・体の調和のとれた教育の推進

取組方針

人として大切である豊かな心が育まれてこそ、知識や健やかな体が生かされると考え、本市の特色として、徳・知・体の調和のとれた人づくりを目指し、以下の取組を推進します。

(1) 豊かな心を育む教育の推進

道徳性や正義感、思いやりや自立心など、次代を担う子どもたちの豊かな人間性や社会性を育むために、自然体験や勤労体験などの体験的学習を充実するとともに、個性や能力を伸ばして自分らしい生き方を実現し、将来活躍できるよう、キャリア教育の充実を図ります。

①人権教育・啓発活動の推進

(ア) 人権教育の推進

本市人権教育の基本方針と取り組みを定めた「熊本市人権教育の推進について」に基づき、すべての人の基本的人権が尊重され、一人一人が自尊感情を高め、お互いを認め合い、共に生きていく人権教育の推進に取り組むとともに、お互いを支え合い共に生きていくことのできる社会を目指し、計画的・継続的な啓発活動を行う。

■学校での人権教育の推進

平成14年度に策定した「熊本市人権教育の推進について」を平成21年度に改訂し、これまでの成果を生かして自他を尊重する実践力の育成のために、次のことに重点的に取り組んでいる。

◇すべての教職員の基本的認識の確立と組織的な取り組みの充実

◇教育活動全体を通じた人権教育の推進

- ・人権が尊重される学習活動の工夫と展開
- ・人権が尊重される人間関係づくり
- ・人権が尊重される環境づくり

◇家庭・地域・関係諸機関との連携及び校種間の連携

平成14年度から、講師を招聘しての人権教育校内研修を拡充し、実施している。

(平成27年度実績：研修会回数61回)

さらに平成26年度から、指導主事が講師として各学校の要望に応じた研修会の指導助言を行う「わくわくじんけん研修」に取り組んでいる。(平成27年度実績：24回)

幼稚園向けには、教育センターと連携した「パッケージ研修」として実施している。

すべての園・学校において、人権教育全体計画・人権教育推進計画・人権学習年間指導計画に基づいた園内・校内の人権教育の充実を図る取り組みを進めている。

■教職員等の研修

熊本市教育委員会が主催する平成28年度の研修会の実施計画は以下の通りである。

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ・校長・園長人権教育研修会 | 1回(平成28年度対象者147人) |
| ・教頭・幼稚園主任教諭人権教育研修会 | 1回(平成28年度対象者166人) |
| ・人権教育主任研修会 | 1回(平成28年度対象者148人) |
| | ※熊本地震により1回目は中止 |
| ・熊本市人権教育セミナー | 1回(平成28年度対象者257人) |
| | ※熊本地震により縮小して実施 |

- ・市立高校・総合ビジネス専門学校人権教育研修会 ※熊本地震により今年度は中止
- ・地区別人権教育研修会 1回（平成28年度対象者約4千人）
- ・教育委員会事務局職員等人権啓発研修会 5回（平成28年度約450人）

■人権教育指導資料の作成（熊本市内の市立幼稚園、小学校・中学校、高等学校に配付）

平成15年度～18年度：参加体験型人権学習指導案集「じんけん1～4」を作成

平成19年度～21年度：人権教育指導資料DVDを製作

平成22年度～27年度：「人権学習の指導改善」をめざした授業づくり学習指導案集「じんけん5～10」を作成

【人権教育指導資料DVD】

人権課題にかかわる方々の「語り」を収録している。

<19年度>「原爆被害者の人権」「ハンセン病をめぐる人権」

<20年度>「水俣病をめぐる人権」「同和問題」

<21年度>「子どもの人権」



人権教育指導資料 DVD

【「人権学習の指導改善」をめざした授業づくり学習指導案集】

<22年度>「じんけん5」DVDを活用した学習指導案集

<23年度>「じんけん6」学ばせたい普遍的な内容を明らかにした学習指導案集

<24年度>「じんけん7」学ばせたい普遍的な内容を明らかにした学習指導案集

<25年度>「じんけん8」教科書でできる人権学習をコンセプトとした学習指導案集

<26年度>「じんけん9」障がい者の人権

<27年度>「じんけん10」子どもの人権



「じんけんハンドブック」「じんけん10」

人権教育を通じて育てたい資質・能力、人権教育諸計画の作成、人権教育についての関係資料等を掲載した「じんけんハンドブック」を作成し、平成27年度から教職員に配付している。

■熊本市子どもフォーラム

子どもたちが日頃の思いや願いを自由に述べ合い、子どもとおとなが共に学び合うことを目的に、平成10年度から開催している。平成26年度からは新たな計画のもとに、平成28年度までの3年間で全小中学校で実施するよう進めている。平成28年度は15中学校区（46小・中学校）で実施する。



平成27年度子どもフォーラムの様子

<平成28年度 子どもフォーラム開催 31小学校・15中学校>

- | | | | | | | |
|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| ・桜山中 | ・帯山中 | ・出水南中 | ・長嶺中 | ・桜木中 | ・城西中 | ・芳野中 |
| ・河内中 | ・力合中 | ・日吉中 | ・富合中 | ・北部中 | ・龍田中 | ・五霊中 |
| ・植木北中 | ・黒髪小 | ・託麻原小 | ・帯山小 | ・帯山西小 | ・画図小 | ・託麻南小 |
| ・長嶺小 | ・桜木小 | ・桜木東小 | ・松尾東小 | ・松尾西小 | ・松尾北小 | ・小島小 |
| ・中島小 | ・芳野小 | ・河内小 | ・力合小 | ・力合西小 | ・日吉小 | ・日吉東小 |
| ・富合小 | ・川上小 | ・西里小 | ・北部東小 | ・龍田小 | ・龍田西小 | ・植木小 |
| ・山本小 | ・山東小 | ・吉松小 | ・田底小 | | | |

■啓発資料の作成

人権啓発作品（短いメッセージ・詩・絵やポスター）を園・学校から募集し、その作品をもとに、「人権カレンダー」を作成している。人権カレンダーには、「児童の権利に関する条約」の主な条文も掲載している。各園・学校に配付した人権カレンダーは、教室等に掲示し活用されている。

また、子どもを取り巻く環境が厳しくなっている社会にあって、子どもの理解が重視されるとともに子どもを個人として尊重することの大切さについて啓発するために、「児童の権利に関する条約」周知ポスターを作製し、園・学校、社会教育関係施設に配付している。



「児童の権利に関する条約」周知ポスター



人権カレンダー

(イ) 人権啓発活動の推進

■学校や公民館等における人権啓発活動

人権教育指導室が学校や公民館と共催する人権に関する講演会を、平成23年度からハートフル講演会として実施している。

・平成27年度実績 ハートフル講演会 17小・中学校にて実施

■市民への人権啓発活動

・平成27年度実績 ラジオ放送による人権教育指導室からの啓発（年6回）
ラジオ放送による小・中学生からの啓発（毎週日曜、月毎の担当校）

■社会教育関係者への研修

・平成27年度実績 社会教育主事研修（23人） 1回実施

■人権の花運動

法務省の人権擁護機関の活動として昭和57年度から小学校を対象に実施している。花の種子や球根などを子どもたちが協力して育てることを通して生命の尊さを実感し、その中で、豊かな心を育み、優しさと思いやりの心を体得し、人権尊重の精神を育むことを目的としている。平成28年度は5小学校で実施する。

<実施校>

- ・平成28年度（5校） 麻生田小学校、白坪小学校、帯山小学校、桜木小学校、力合西小学校
- ・平成27年度（5校） 武蔵小学校、池田小学校、託麻原小学校、月出小学校、力合小学校
- ・平成26年度（5校） 春竹小学校、山ノ内小学校、城西小学校、楡木小学校、御幸小学校
- ・平成25年度（5校） 本荘小学校、春日小学校、北部東小学校、健軍東小学校、日吉小学校
- ・平成24年度（3校） 黒髪小学校、飽田南小学校、桜井小学校

■子ども議会 ※平成28年度は熊本地震により中止

子どもたちの市政に対する意見を聞くとともに、次代を担う子どもたちが熊本のくらしや未来について語り合うことで、自他を大切にする市民としての意識を高める。

<開始年度> 平成9年度

<主催> 熊本市・熊本市議会・熊本市教育委員会

<場所> 熊本市議会議場

<平成27年度実績>

- ・日時 平成27年8月7日（金）13:30～15:30（本会議）
- ・場所 熊本市中央区手取本町1番1号 熊本市役所議会棟 熊本市議会議場
- ・参加者 校長から推薦された熊本市内の中学生52人
（内訳）熊本市立中学校42校から42人
私立中学校9校から9人 熊本大学附属中学校から1人

・質問事項

中学生が意見を言える場について
選挙権年齢が18歳以上になったことで、若い世代の投票を促す取組について
中学生の自転車の交通ルールを守る取組について
「きずな」アンケートのSNSに関する質問について など

- ・その他、市立高校2校から2人ずつ参加し、中学生の活動を参観するなど、学習の場・交流の機会を設けた。



子ども議会で質問する様子



52人の子ども議員

②道徳教育の充実

子どもたちが人として豊かに生きるための道徳性を育成する道徳教育の充実に努める。学校における道徳教育は、道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて行うために、教員の指導力の向上に努めるほか、保護者や地域の人々の道徳教育への理解を深める取り組みを実施している。

■感性をみがく教育の推進

◇芸術：ホンモノにふれ感性を育む授業づくり

本物にふれたときの感動は、子どもたちに夢を与え、感性をみがくうえで、大きな効果がある。本物にふれる体験をさせることで、心豊かな児童生徒の育成を図る。そのために、平成17年度から、「ホンモノにふれ感性を育む授業づくり」を行っている。

これは、各学校が、各分野の優れた講師を招聘し、児童生徒がホンモノにふれ、豊かな感性を育むために、体験的な授業を行う「ホンモノにふれ感性を育む授業づくり」を推進することを目的とする。

<27年度実施校>小学校15校・中学校2校 計17校

【声楽家】高平台小 城西小 清水小 託麻東小 飽田南小

【ピアニスト】向山小 中島小 白山小

【邦楽家】尾ノ上小 日吉東小

【バイオリニスト】高橋小 小島小 田原小 京陵中

【エレクトーン奏者】日吉小 秋津小

【チェリスト】出水中

◇道徳：スペシャルゲスト「来て来て先輩」

児童生徒に、すばらしい先輩の生き方に学び、夢を抱き、よりよく生きようとする意欲を育てる

契機となるような出会いを経験させるために、平成15年度から社会貢献や文化・芸能・スポーツなどで著名な卒業生などの郷土出身者を特別講師として招聘し、道徳の授業や実技の指導、講話などを行っている。

＜平成27年度の実施校＞小学校31校・中学校7校 計38校

【元オリンピック選手】出水南小 城南小

【作曲家、シンガーソングライター】城東小 池田小 慶徳小 泉ヶ丘小 龍田小 高平台小
託麻南小 銭塘小 竜南中 託麻中 芳野中

【文庫代表】白坪小 龍田中

【動物愛護センター】壺川小 白川小 一新小 御幸小 清水小 日吉小 高橋小 城北小、奥
古閑小 武蔵小 川上小 西里小 城東小 中緑小 豊田小 田原小

【落語家】一新小 松尾北小 中島小 城西中 鮑田中 力合中

◇日本語力：確かな日本語力を育む「日本語大好き！」

落語家や絵本作家、アナウンサーを招聘し、日本の伝統や日本語のリズム、その美しさを体感し、講師の指導のもと、実際に声に出す活動などを行う。それによって、日本の言語文化に親しみ、その担い手として言語文化を継承・発展させる態度を育てていくことを目的とする。

＜平成27年度実施校＞小学校18校・中学校4校 計22校

【落語家】黒髪小 力合西小 楠中 二岡中

【絵本作家】泉ヶ丘小 武蔵小 託麻中

【俳人】山本小

【アナウンサー】松尾東小 鮑田西小 鮑田南小 桜木東小 出水小 尾ノ上小 田原小 楠小
川上小 健軍東小 古町小 白坪小 慶徳小 天明中

■道徳教育総合支援事業

◇平成27年度取組

平成26年度から文部科学省の「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の指定を受け、「体験活動などにおける道徳教育的実践の工夫」という今までの研究を生かし、体験活動を生かした道徳の授業の充実を図っている。

道徳の教科化に向けて、道徳教育推進協議会や道徳教育推進モデル校を設置し、道徳的価値についての自覚を深め、道徳的实践につなげていくことができるような道徳の授業の在り方についての協議を行った。また、道徳教育推進リーダーを中心に「特別の教科 道徳」（道徳科）の趣旨・内容を踏まえた授業実践への取り組みを行った。

学校・家庭・地域の三者が連携し道徳教育を推進していくための取り組みとして、「親子道徳の日」を全小中学校において実施した。

・「道徳教育推進モデル校」の設置

小学校2校、中学校1校をモデル校とし、「考える道徳」「議論する道徳」の授業実践や、評価についての研究を行い公開授業を実施。

・「道徳の授業ポイント集」の作成

「特別の教科 道徳」（道徳科）の趣旨・内容を踏まえた授業実践に向けて、多様で効果的な指導方法として、「私たちの道徳」を教材とした指導案集を作成した。

◇平成28年度取組

平成28年度も文部科学省の「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の指定を受け、道徳教育の推進を図る。また、小学校は平成30年度、中学校では平成31年度の国における「特別の教科 道徳」（道徳科）の全面実施に向け、本市は、本年度「特別の教科 道徳」（道徳科）に向けた準備と新しい内容項目を含めた授業実践を行う。

特に、道徳教育推進協議会において「特別の教科 道徳」（道徳科）の全面実施に向けての取り

組みや道徳教育推進モデル校の役割などについて協議を行う。

③情報教育の推進

■情報モラル教育の推進

「学校非公式サイト等パトロール事業」では、児童生徒が利用する「学校非公式サイト等」において、個人情報の流布やいじめ・中傷表現と考えられる書き込みなどについて、専門業者に委託し、検索・調査・削除を行っている。また、学校に対し、具体的な事案に対する助言や指導等行う他、資料の提供などを行い、情報モラル教育の推進に役立てている。

＜当事業で検知した件数の推移＞

(件)

年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
中学校	896	579	353	587	999
高校	404	208	351	245	783
合計	1,300	787	704	832	1,782

また、スマートフォン等の普及により、「ネットいじめ」や「スマホ依存」など、子どもたちを取り巻く環境が急激に変化していることから、平成27年度から小・中・高等各学校に情報モラル教育推進リーダーを設置するとともに、スマートフォンやSNSに詳しい専門家を講師として招聘し、参加型研修を通して情報モラルに関する意識を高める情報モラルキャラバンや、熊本市情報モラル教育セミナーを行い、学校・保護者・地域が連携した取り組みを推進する。

＜情報モラルキャラバン実施状況＞

平成27年度 小学校53校 中学校39校
高等学校2校
平成28年度 小学校42校 中学校3校（予定）

＜熊本市情報モラル教育セミナー開催状況＞

平成27年度 期 日：平成27年7月29日（月）
場 所：熊本県立劇場演劇ホール
内 容：講演 竹内和雄氏（兵庫県立大学環境人間学部准教授）
実践発表 熊本市立池田小・江南中の児童生徒
パネルディスカッション

参加者：教職員、地域住民、保護者等 延べ965名

※熊本地震により平成28年度は中止



情報モラルキャラバンの様子



④体験活動の充実

自ら学ぶ意欲や主体的に学ぶ態度を身に付けさせるとともに、学ぶことの楽しさや成就感を体得させ、豊かな人間性とたくましい体を育むために、体験的な学習を積極的に展開する。

■キャリア教育

キャリア教育は、「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」としてとらえられている。将来、社会的自立・職業的自立を図るために、児童生徒の発達段階に応じて職場見学や職場体験、学級の係活動や学校の児童会・生徒会の活動などに取り組んでいる。また、キャリア教育で育成をめざす基礎的・汎用的能力をもとに各学校が作成している諸計画等を見直したり、キャリア教育で育てたい力を意識した授業づくりに取り組んだりしている。

○キャリア教育担当者会

キャリア教育担当者を対象にした研修会を実施し、キャリア教育担当者の役割について共通理解を図り、実践に向けた情報交換の場に行っている。平成27年度は、キャリア教育の現状と、キャリア教育の意義や育てたい基礎的・汎用的能力について説明を行った。また、事業所の方を講師に迎え、社会に出て求められる人等について講話を行った。参加した担当者が自校でどのような実践ができるのか考えるきっかけづくりとした。その後、近隣の小中学校の担当でグループを作り、各校の全体計画を資料として、各校の取組について情報交換を行った。

○研究発表会の開催

「キャリア教育」をテーマにした研究発表会を、平成19年度に託麻東小学校、平成20年度に二岡中学校、平成22年度に古町小学校で行った。平成25年度に三和中学校で開催した研究発表会は、特別活動（学級活動）を中心に、子どもを中心に据え、子どもたち同士のつながりを大事にしながら、キャリア発達による諸能力の育成を目指す研究実践について発表する場となった。

■ナイストライ事業

心身ともに大きく成長する中学生の時期に、地域や自然の中で職場体験などの様々な体験活動を通して、子どもの勤労観・職業観や感謝する心などの豊かな心をはぐくみ、主体的・実践的な態度を培い、子どもたちの“生きる力”を育成する。また、この事業を通して、地域に生活する人々の生き方に学び、学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割と責任を自覚し、三者が連携して次代を担う子どもを育成するという気運を醸成する。

＜対 象＞全中学校2年生

＜活動例＞職場体験活動、勤労生産活動、芸術・文化体験活動、ボランティア・福祉体験活動



年 度	学校ごとの活動日数内訳			受入事業所等数
	3日間	4日間	5日間	
平成23年度	37	4	1	のべ2, 125事業所
平成24年度	37	4	1	のべ2, 168事業所
平成25年度	41	2	0	のべ2, 091事業所
平成26年度	42	1	0	のべ2, 163事業所
平成27年度	42	1	0	のべ2, 056事業所

※平成25年度から、清水ヶ丘分校を含む43校で実施

■勤労体験学習

児童生徒が勤労を重んじ、自己実現の力と社会に貢献できる力を培っていけるように勤労体験学習を奨励しており各学校の創意工夫により、様々な体験活動を展開している。

＜活動例＞米、野菜等の農作物の栽培、果物の収穫、堆肥・腐葉土作り、一人一鉢運動、生き物の飼育、校区・地域の清掃活動、地域の人との交流活動

＜現 状＞校内農地面積総計 248.87a 借用農地面積総計（校外）395.03a

実施校数 小学校95校（分校1校を含む）、中学校43校（分校1校を含む）

（平成27年5月現在）

■自然体験関連の活動

校外の豊かな自然に触れる体験を通して、学校における学習活動を充実・発展させることをねらいとして、遠足や野外活動、集団宿泊などの自然体験活動に取り組んでいる。教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間等と関連させながら、地域の人材や施設を生かし、総合的・横断的に行っている。

平成26年度	小学校		中学校		主な内容
	実施校	実施率	実施校	実施率	
1 野外探索 （地域の自然探訪）	95	100%	5	11.6%	草花遊び、季節探し、昆虫採集、江津湖や花岡山での自然観察、水生・湧水生物調査、水質調査、リバーウォッチング、熊本城散策、校区の史跡探索、校区・町探検、マップづくり 等
2 野外生活 （キャンプなど）	42	44.2%	10	23.2%	PTAと連携した学校キャンプ、親子ふれあいキャンプ、サバイバルキャンプ、PTA・青少協合同キャンプ、校外でのキャンプ 等
3 野鳥の観察 （探鳥会など）	25	26.3%	1	2.3%	江津湖での野鳥観察・冬鳥探鳥会、バードウォッチングクラブでの観察活動、地域にいる野鳥探索 等
4 自然教室	38	40.0%	11	25.5%	カヌー体験、博物館での学習、御船町恐竜博物館でのレプリカ作り、化石採集、プラネタリウム見学、月の観察（PTA活動）、自然のものをを使った飾り作り、森林教室、地学巡検会、太陽黒点の観察、椎茸こま打ち体験 等
5 農業体験 （米作り）	54	56.8%	3	6.9%	田植え～稲刈り体験、アジア・アフリカ支援米・バケツ稲作り、交流ふれあいもちつき、PTAバザーもちつき、案山子作り 等
6 農業体験 （米以外の作物）	88	92.6%	30	69.7%	野菜の栽培、収穫（家庭科調理に活用）、春日ぼうぶら栽培、味噌作り、きな粉作り、肥後野菜栽培（給食で利用）、栽培した芋を料理して老人ホームの方との食事会 等
7 園芸 （花作り等）	87	91.5%	35	81.3%	縦割り班や委員会活動による花作り、一人一鉢運動、花いっぱい運動、熊本農業高校生徒との交流、菊作り、草取り、堆肥作り、腐葉土作り、校内樹木の養生、グリーンカーテン 等

8 酪農	37	38.9%	2	4.6%	飼育の様子見学、ミルク牧場での体験、搾乳体験、アイスクリームづくり体験、熊本農業高校で牛の見学、牛舎の清掃や牛のブラッシング体験 等
9 林業	15	15.7%	3	6.9%	森林学習、県産材によるベンチ作り、緑の少年団で学校林の手入れ、植樹、炭作り、熊大教授による森林教室 等
10 漁業	6	6.3%	1	2.3%	干潟体験、海苔漉き体験、魚を獲る仕事のきまりや船の見学、乗船体験、地引網体験、潮干狩り 等
11 その他	4	4.2%	1	2.3%	収穫したサツマイモを使った蒸しパン作り、グリーンピースの殻むき体験（給食に利用）、ホタルを卵から幼虫に育てる、校内池のビオトープ化、熊本農業高校での家畜見学 等

※1 調査対象は、小学校95校（分校1を含む）、中学校43校（分校1を含む）。

※2 金峰山少年自然の家集団宿泊教室、あそ教育キャンプ、ナイストライ、修学旅行を除く。

■ボランティア関連の活動

児童会・生徒会活動や学校行事、総合的な学習の時間、土曜休日などを利用して清掃活動・美化活動・募金活動・環境保全など特色ある活動を展開している。

平成26年度	小学校		中学校		主な内容
	実施校	実施率	実施校	実施率	
1 清掃・美化活動 (校内を自主的に)	93	97.8%	42	97.6%	校庭の清掃、落ち葉クリーン作戦、部活動による清掃活動、校内美化作業、卒業記念品として樹木札の作成、運動場の石拾い、親子愛校作業、朝のボランティア活動、草取り大会 等
2 地域清掃 (公園等)	49	51.5%	22	51.1%	地区児童会による清掃活動、校外学習時のゴミ拾い、河川敷清掃、通学路でのゴミ拾い、公園清掃奉仕活動参加、坪井川・金峰山清掃活動、立志行事地域清掃奉仕活動、地域合同クリーン作戦、地域公園のペンキ塗り 等
3 介護体験	52	54.7%	13	30.2%	車椅子体験、高齢者擬似体験、アイマスク体験、認知症の高齢者への接し方の講習、全盲者による講話、認知症サポーター養成講座、福祉祭りへの参加 等
4 在宅訪問	11	11.5%	35	81.3%	在宅センターなどをグループで訪問、独居老人宅訪問（手紙、花などを持って）、ジュニアヘルパー、ふれあいランチ配り 等
5 施設訪問	38	40.0%	10	23.2%	リデルライトホームでの文化祭出演・交流、子ども文化会館訪問、絵手紙作り、人権作品見学、クラブ活動で地域と交流、敬老の集いへの参加、老人ホームでのミニコンサート 等
6 募金活動	77	81.0%	28	65.1%	児童会・生徒会での呼びかけ、緑の少年団による募金活動、支援米出発式、街頭募金に参加及び募金活動、フェアトレードチョコレート販売、アフリカへ給食募金、地震お見舞い 等
7 リサイクル活動 (廃品回収等)	71	74.7%	41	95.3%	委員会活動・部活動として、地域の廃品回収との連携、ゴミの分別作業、アルミ缶・トレイ・リサイクルペーパー等の回収、ベルマーク集め、廃油石鹸づくり 等
8 ボランティア活動	61	64.2%	34	79.0%	書き損じはがき集め、JRC活動、救急法の実習、AEDの実技演習、スマイルアフリカプロジェクトに参加 等
9 幼児との交流	82	86.3%	27	62.7%	手作りの紙芝居実演、幼・小・中合同の歓迎遠足、幼稚園児との収穫体験、乳幼児との交流、1年生と園児との交流（学校紹介とゲーム、絵本の読み聞かせ、昔遊びによる交流、町探検時に園を訪問、生活科ふれあい交流会に招待） 等

10 特別支援学校との交流	18	18.9%	1	2.3%	熊本盲学校で施設見学・点字体験、聾学校の交流会参加、菊池支援学校児童との交流、合同運動会・見学旅行・集団宿泊教室、特別支援学校の作品制作に協力（美術部）等
11 高齢者との交流	78	82.1%	27	62.7%	立志式での講話、プランタープレゼント、ものづくりとグラウンドゴルフ、ふれあい給食、シルバーボランティアとの交流、伝承遊び、演奏会、地域交流センターでの交流、見守り隊の方との交流、地域の方と連携してお弁当配り、地域の高齢者への年賀状、敬老会・民生委員との会食、樹木の剪定作業等
12 障がい者との交流	33	34.7%	1	2.3%	県盲導犬使用者の会と盲導犬とのふれあい、難聴者理解、視覚障害者を招いた学習会、点字学習、アイマスク体験、UD 調べ、学習発表会への招待、車椅子体験、地域授産施設の方との音楽会等
13 外国の人との交流	76	80.0%	25	58.1%	ALT との交流、異文化体験、クラブ活動で留学生との交流、外国籍の児童・保護者との交流、国際交流員との交流、外国の絵本に触れる活動、熊本市姉妹都市について話を聞く、外国の学校との交流会、JICA・ユニセフ職員の講話等
14 挨拶運動	88	92.6%	38	88.3%	「心かがやけ月間」の挨拶運動、PTA と合同の挨拶運動、学級輪番による挨拶運動、委員会や部活動による挨拶運動等
15 その他	0	0%	2	4.6%	国際交流と英会話科での交流、田原インターナショナルフェスティバルの開催等

※1 調査対象は、小学校95校（分校1を含む）、中学校43校（分校1を含む）。

※2 金峰山少年自然の家集団宿泊教室、あそ教育キャンプ、ナイストライ、修学旅行を除く。

■青少年の野外教育活動

恵まれた自然環境の中での集団生活を通じて、青少年の健全な育成を図る。

○金峰山少年自然の家

1. 小学5年生 集団宿泊教室の受入れ

例年は、4月から2泊3日のプログラムで受入れを開始するが、今年度は熊本地震のため、9月から1泊2日で受入れを開始する。

87校 延べ21,600名（見込み）

2. 中学生、少年団体、その他団体の受入れ

3. 金峰山少年自然の家主催事業（研修会等を含む）の実施

14事業を実施予定であったが、熊本地震のため、6事業を中止した。

平成28年度 宿泊主催事業

主催事業名	期日	対象	募集定員	内容
スーパーチャレンジ 金峰山	熊本地震のため 中止	小学校 4・5・6年生	40名	①テント生活 ②夜のわくわくプログラム ③野外調理
「はじめての一步」 パート1	熊本地震のため 中止	小学校 1・2・3年生	40名	①舎営で宿泊 ②レクリエーションゲーム ③ミニナイトハイク ④夜のお楽しみ会 ⑤クラフト体験
炎と子どものまつり	8月5日（金）	中学生	100名	①「火の国まつり」採火式に参加

ふれあいファミリーキャンプ	熊本地震のため中止	小・中学生とその家族	15家族	①テント生活 ②野外調理 ③ナイトハイク ④魚のつかみ取り
防災サバイバルキャンプ	熊本地震のため中止	小学校4・5・6年生	20名	①体育室での避難所体験 ②節水生活 ③野外調理
金峰山でプレクリスマス	熊本地震のため中止	小学校4・5・6年生	40名	①舎営で宿泊 ②クリスマスコンサート ③クラフト体験 ④野外活動
ミステリー金峰山	3月18日（土） ～19日（日） 1泊2日	小学校4・5・6年生	40名	①舎営で宿泊 ②レクリエーションゲーム ③登山

平成28年度 ショートプログラム主催事業

主催事業名	期日	対象	参加人数	内容例
集団宿泊教室教職員事前説明会（前期）	8月4日（木）	小学校の教職員	50名程度	①利用上の留意点・活動エリアの実踏による確認 ②各種プログラムの紹介 ③野外活動における安全管理についての講習
集団宿泊教室教職員事前説明会（後期）	8月19日（金）	小学校の教職員	50名程度	①利用上の留意点・活動エリアの実踏による確認 ②各種プログラムの紹介 ③野外活動における安全管理についての講習
活動協力員研修会	熊本地震のため中止	活動協力員	20名程度	①利用上の留意点・活動エリアの実踏による確認 ②救命救急法・AED講習 ③野外活動における安全管理についての講習



○あそ教育キャンプ場

阿蘇の大自然の中でキャンプ活動を通して、自然に対する理解を含め、協同・創造・奉仕の心を培い、豊かな人間関係を形成させるための施設である。

年間を通じて利用でき、市内の中学校の教育キャンプや青少年団体、家族等にも利用されている。

平成28年度は熊本地震により休止中。

平成27年度利用状況

	利用 団体数	利用延べ 人数
中 学 校	35	18,738
青 少 年 団 体 等	16	1,423
主 催 事 業	3	74
合 計	54	20,235

利用者数推移

年 度	利用延べ人数
23年度	22,909
24年度	21,981
25年度	23,188
26年度	22,430
27年度	20,235

■国内・国際交流事業

青少年教育の一環として、国内外の友好姉妹都市との青少年交流活動を通して、親善を深めるとともに次代を担う青少年リーダーを育成する。

＜熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業＞（相互交流）

1992年（平成4年）5月、両市間の友好都市締結に伴い、教育分野の相互交流として、青少年の隔年相互交流を実施することが決定。同年からスポーツ交流開始。翌平成5年度から青少年交流開始。1999年（平成11年度）から青少年交流とスポーツ交流を一本化して事業実施。

【過去の実績】（平成4～27年度）

- ＜派遣＞（青少年） 11回・243人（高校生191・役職員52）
（スポーツ） 12回・180人（中学生139・役職員41）※平成27年度廃止
計423人（中・高校生330・役職員93）
- ＜受入＞（青少年） 11回・256人（高校生209・役職員47）
（スポーツ） 10回・139人（中学生106・役職員33）※平成27年度廃止
計395人（中・高校生315・役職員80）

- ・平成28年度：派遣
- ・派遣日程：平成28年7月28日（木）
～8月6日（土）
- ・派遣団員：27名（青少年交流団員22名、役職員5名）
- ・活動内容：歴史文化施設見学、親善交流活動、ホームステイ活動等
- ・事業開始：平成4年度



平成28年度の様子

＜熊本市・桂林市高校生交流事業＞（相互交流）

1979年（昭和54年）10月、両市間の友好都市締結に伴い、高校生の派遣決定。昭和55年度、第1回訪問団派遣。平成5年度、第1回訪問団受入。平成14年1月の両市合意に基づき、14年度から隔年相互訪問となる。

【過去の実績】（昭和55～平成27年度）

- ＜派遣＞28回・638人（高校生513・役職員125）
＜受入＞9回・200人（高校生137・役職員63）
- ・平成28年度は休止
 - ・事業開始：昭和55年度

＜熊本市・福井市小学生交流事業＞（相互交流）

青少年教育の一環として、姉妹都市である福井市と小学生相互の交流を行い、寝食を共にした生活体験、両市の文化紹介、歴史・文化施設の見学等を通して両市の友好関係を深める。

【過去の実績】（平成7～27年度）

＜派遣＞21回・560人（小学生453・役職員107）

＜受入＞21回・541人（小学生437・役職員104）

- ・平成28年度：派遣（震災により受入は中止）
- ・派遣日程：平成29年1月6日（金）～9日（月・祝）
- ・派遣団員：20名（小学生団員16名、役職員4名）
- ・活動内容：歴史文化施設見学、親善交流活動、スキー体験、ホームステイ活動等
- ・事業開始：平成7年度



＜九州都市中学生交流事業＞（参加4都市で持ち回り開催）

青少年教育の一環として、九州内の都市と青少年交流活動を通して親善を深めるとともに、次代を担う青少年リーダーを育成する。

【過去の実績】（平成4～27年度）

＜派遣・受入＞18回・1,305人（中学生1,110・役職員195）

- ・平成28年度：震災により事業中止
- ・事業開始：平成10年度

＜ローム市中学生派遣事業＞

旧植木町が姉妹都市ローム市（アメリカ・ジョージア州）と平成4年から実施している青少年交流事業（派遣・受入）。平成22年の熊本市と旧植木町との合併により、北区植木まちづくり交流室が事業を継承。平成27年の合併特例措置の終了に伴い、旧国際室を経て平成28年度に業務が移行した。

- ・派遣日程：3月下旬～4月上旬
- ・派遣人数：12名（中学生10名、役職員2名）
- ・活動内容：歴史文化施設見学、学校訪問、ホームステイ体験等
- ・事業開始：平成28年度（旧植木町 平成4年度）

（2）確かな学力を育む教育の推進

子どもたちが学ぶ楽しさや分かる喜びを実感できるような授業を推進し、確かな学力の向上に努めます。

①教育内容の充実

（ア）基礎学力の向上

■「学びノート」の活用と「学びノート教室」の開催

平成14年度から実施された学習指導要領を受け、本市では、平成16年度から基礎学力の充実を

図るために、ぜひ身に付けてほしい基礎・基本の問題集「学びノート」を作成している。

平成20年3月に告示された新学習指導要領においても、児童生徒に「生きる力」を育成するという基本理念を大切にしながら、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等をバランスよく育んでいくことが重視されており、基礎学力の充実に役立てるために学びノートの改訂を重ねている。(平成26年度に小学校、平成27年度に中学校を全面改訂。)



平成28年度版小学校学びノート

「学びノート」には、子どもたちに習得させたい基本的な問題を多数掲載するとともに、答えや解説も掲載しており、授業でも、自学自習でも活用することができるようにしている。特に小学校の国語・算数については、学びノートを印刷製本し、全児童に1冊ずつ配布して、基礎・基本の充実にために活用しやすくしている。なお、中学校には、従来のDVDに加え、冊子を学校に1冊ずつ配布し、活用の向上に努めている。

平成18年度からは、全小学校において、放課後の時間を活用し、3年生以上の希望者を対象とした「学びノート教室」を開催している。

各小学校に学びノート教室サポーターを配置し、「学びノート」の活用を通して、学ぶ意欲の向上や学びの習慣化を目指し、子どもたちの基礎学力の定着を図るようにしている。



学びノート教室での子どもたちの様子

■学力向上支援員派遣事業

児童一人一人の基礎的・基本的な学習内容の定着を図るために、平成25年度から学力向上支援員を派遣し、本市小学生の学力向上をめざす。

◇取組内容

平成28年度は、小学校の3、4年生の算数の授業に、3人の退職教員を「学力向上支援員」として派遣し、授業等に参加し、児童一人一人を直接支援していく。

◇主な支援内容

- ・授業における児童への学習支援
- ・学習習慣等の課題検証
- ・学級及び学年の学力向上策支援



学力向上支援員が参加する授業の様子

■言語活動の充実

思考力・判断力・表現力を育成するために、国語科だけでなく、各教科等において言語活動を充実させ、言語能力の向上に努める。そのために、次のような視点にたち、具体的な取り組みを進めていく。

- ・伝え合うことを通して学び合い、高め合うことができる学習活動の設定
- ・言語活動の基礎となる能力の育成を重視した国語科授業の推進
- ・各教科等における教科目標達成のための手段としての言語活動の位置付けと、指導の充実のための年間指導計画の作成
- ・学校生活全体における言語環境の整備
- ・学校、家庭、地域を通じた読書活動の推進と読書習慣の確立
- ・情報センターとしての学校図書館の充実と授業における積極的な活用

■日本語力の向上（確かな日本語力を育む「日本語大好き！」）

児童生徒に伝統文化・日本語の美しさ等にふれる機会を通して、日本語力（言葉の力）の育成を図るために、平成27年度から日本語に関わる職業に就く講師（落語家、絵本作家、アナウンサー）を招聘し、小学校18校 中学校4校で実技指導や講話などを行った。

平成28年度からは、熊本市版日本語検定「日本語好きだ検」という暗唱用の冊子を小学校に配布し、小学校低学年から、日本の伝統や季節の言葉、短歌や俳句、古典、漢文に触れ、語彙を増やし、日本語力の基盤づくりに取り組む予定である。

■教科書採択

教科書の採択とは、学校で使用する教科書を決定することである。平成27年度は平成28年度から中学校で使用する教科用図書採択の年であったので、文部科学省の検定に合格した全ての教科書について、綿密なる調査研究を行い、本市の子どもにふさわしい教科書を教育委員会会議で協議・採択した。

具体的には、県教育委員会が教科用図書選定審議会を設置し、全ての教科書について調査・研究を行い、この審議会の調査結果を基に選定資料を作成し、採択権者（市教委）へ送付することにより指導・助言を行った。

次に、市教育委員会は、教科書研究員が本市の採択基準に基づき、全ての教科書について調査・研究を実施した。その後、学識経験者、学校関係者、保護者、教育委員会、地域関係諸団体などからなる教科書選定委員会において、教科書研究員の報告、教科書展示会からの感想・意見等の資料を踏まえて協議し、教育委員会に意見・具申した。

最終的に、教育委員会会議において協議し、本市の子どもにふさわしい教科書を採択し、県教委へ報告した。

(イ) 授業力の向上

■授業力向上支援員（ステップアップサポーター）派遣事業

授業力の優れた退職教員（ステップアップサポーター）を、小・中学校に派遣し、授業に即して支援し、また、学校全体を支援し、校内研修の活性化、学校訪問の充実など、教職員の授業力向上を図っている。

年度	小学校		中学校		合 計	
	派遣学校数	研修者実数	派遣学校数	研修者実数	派遣学校数	研修者実数
H22	76校	211人	32校	148人	108校	359人
H23	68校	194人	28校	98人	96校	292人
H24	63校	149人	35校	105人	98校	254人
H25	89校	378人	41校	185人	130校	563人
H26	71校	365人	33校	155人	104校	520人
H27	77校	438人	35校	162人	112校	600人

■校（園）内研修

各学校や園においては、学校教育目標の達成のために、実態に応じて研究主題を設定し、組織的・計画的に研修を行い、各教科等の授業における「指導力の向上」及び子どもの理解や学級経営等につながる「教師としての資質や能力の向上」を図っている。

- ・平成27年度 1校（園）あたりの平均実施状況
- ・幼稚園 30.6回 小学校 29.8回 中学校 20.9回

■授業研究の充実（学びわくわく小中学校授業研究会）

各教科等及び特別支援教育の専門的知識を深めるとともに、教育課程及び学習指導法等について研究協議を深め、教職員の指導力の向上を図る目的で、授業研究会の充実に努めている。「授業研究会の日」を、6月・10月・2月に実施し、このうち一斉開催を中学校は10月、小学校は2月に実施する。

研 究 会 名			授業研究会実施回数				
			23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
小 学 校	熊本市小学校国語教育研究会		7	9	11	11	4
	熊本市小学校書写教育研究会		1	1	1	1	1
	熊本市小学校社会科教育研究会		5	6	6	5	3
	熊本市小学校算数教育研究会		5	5	5	6	5
	熊本市小学校理科教育研究会		3	4	4	4	5
	熊本市小学校生活科・総合的な学習研究会		7	3	3	8	7
	熊本市小学校音楽教育研究会		4	4	4	3	3
	熊本市小学校家庭科教育研究会		5	4	4	6	3
	熊本市小学校体育研究会		5	7	7	8	5
	熊本市小学校道德教育研究会		4	4	4	6	5
	熊本市小学校特別活動研究会		5	5	5	5	3
	熊本市小学校外国語活動研究会		4	4	4	4	4
	小学校計		55	56	58	67	48
中 学 校	熊本市中学校国語教育研究会		4	4	4	4	4
	熊本市中学校社会科教育研究会		3	3	3	3	3
	熊本市中学校数学教育研究会		5	5	5	5	5
	熊本市中学校理科教育研究会		4	5	5	5	6
	熊本市中学校音楽教育研究会		1	1	1	2	2
	熊本市中学校体育研究会		5	5	5	4	5
	熊本市中学校技術・家庭科教育研究会		2	2	2	2	3
	熊本市中学校英語教育研究会		5	4	5	5	9
	熊本市中学校道德教育研究会		※	1	※	1	※
	熊本市中学校特別活動研究会		※	0	※	0	※
	中学校計		29	30	30	31	37
合 同	熊本市小中学校図画工作美術教育研究会	小	4	4	4	5	3
		中	1	1	1	1	1
	熊本市特別支援教育研究会	小	5	5	5	6	6
		中	4	4	4	4	6
	総 計		98	100	102	114	101

※中学校の「道德」「特別活動」については、教育委員会主催の授業研究会を行った。

■学校教育アドバイザー事業

平成15年度から、熊本大学教育学部の協力により、教授、准教授等をアドバイザーとして市立の小学校、中学校、高等学校及び幼稚園に招聘する。専門分野からの指導助言を得ることにより、校内研修会や教科等教育研究会の充実に図り、教職員の指導力向上に資する。

・平成27年度活用実績

	幼稚園	小学校	中学校	研究会 (小)	研究会 (中)	委員会 (教育センター)	計
校(園)	1	15	7	3	5		31
回数	1	29	9	5	10	18	72

・平成27年度講師数 19人（72回）

■研究委嘱校（園）、研究指定校・研究モデル校

子どものたちの学力充実を図るとともに、教職員の指導力向上を図るために、課題について研究を委嘱し、成果を発表する。

・平成27・28年度 熊本市教育委員会研究委嘱・研究指定校（園）一覧

学校名	研究領域	研究発表日	研 究 主 題
力合中学校 (総支・指定)	生徒指導	10月4日(火)	「自己を高め、他者の役に立とうとする生徒の育成」 ～一人一人を生かした授業の創造と特別活動の充実を通して～
帯山西小学校 (指導・指定)	学力充実	10月12日(水)	「問い」に気付き、自ら考え、実行する子どもを目指して ～“たい”が泳ぐ授業づくりを中心に～
菱形小学校 (指導・指定)	学力充実	10月21日(金)	生き生きと学び、確かな学力を身に付ける菱っ子の育成 ～UDの視点を取り入れた授業の構造化を通して～
天明中学校 (指導・指定)	学力充実	10月26日(水)	学び喜びを感じ、学習に意欲的に取り組む生徒の育成
湖東中学校 (指導・委嘱)	教育課程	11月11日(金)	「わかる」「できる」「学び続ける」生徒の育成 ～焦点化・視覚化・共有化の工夫を通して～
慶徳小学校 (総支・委嘱)	特別支援教育	11月16日(水)	授業のUD化の視点を生かした主体的に学ぶ児童の育成
花陵中学校 (教セ・指定)	教育の情報化 ICT活用	11月22日(火)	気づき・考え・実行する生徒の育成 ～ICT機器の活用を通じた確かな学力の充実を目指して～

・平成28・29年度 熊本市教育委員会研究委嘱・研究指定校（園）一覧

学校名	研究領域	研 究 主 題・研 究 内 容
桜井小学校 (総支・委嘱)	特別支援教育	すべての児童が「わかる、できる」を実感できる授業の工夫 ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた算数科の授業作りを通して～
大江小学校 (指導・指定)	道徳教育	豊かな心を持ち ともによりよく生きる子どもをはぐむ道徳教育 ～特別活動と道徳科が響き合う学習を求めて～
杉上小学校 (指導・指定)	学力充実	「わかった」「できた」の音が響く算数科学習指導
井芹中学校 (指導・指定)	学力充実	「自ら学ぶ力」を育む学習指導の工夫（仮）
東野中学校 (指導・指定)	学力充実	主体的に学び、共に高め合う生徒の育成 ～仲間づくりと伝え合う授業の創造を通して～
隈庄幼稚園 (指導・指定)	教育課程	「人とかかわる力を育てる保育の在り方」（仮題） ～心が通う保育の工夫～
桜木小学校 (教セ・指定)	教育の情報化 ICT活用	伝え合い、学び合いながら、確かな学力を身につける児童の育成 ～学習効果を高めるためのICTの活用を通して～
白坪小学校 (健康・指定)	健康教育	健やかな心と体を育む教育活動の創造 ～自ら考え行動し、命（心と体）を自分で守る児童の育成を目指して～

○平成28年度 研究モデル校（園）

研究領域	主管課	モ デ ル 校 名
少人数指導 (算数・数学)	教育センター 指導課	麻生田小学校・黒髪小学校・花園小学校・西原中学校・楠中学校
道徳教育	指導課	一新小学校・大江小学校・東町小学校・桜木中学校
幼小中連携	指導課	向山幼稚園・向山小学校・江南中学校
英語教育 (H28・29年度)	指導課	楠中学校
ICT活用 (H27・28年度)	教育政策課 教育センター 総合支援課	託麻北小学校・藤園中学校
英語教育 (H26～29年度)	指導課	尾ノ上小学校・月出小学校・山ノ内小学校・錦ヶ丘中学校・必由館高校

■小中一貫教育

富合小学校と富合中学校は、平成16年度から、小中一貫教育の特区認定を受け、小中学校間のスムーズな移行を図るとともに、子どもたちの発達段階や個性に応じた特色ある教育活動を推進している。

平成20年度からの構造改革特別区域研究開発学校設置事業の全国展開に伴い、文部科学省へ教育課程特例指定変更申請を行い、教育課程特例校としての承認を受けた。

その取組を積極的に公開するとともに、小中一貫教育検証検討委員会の議論も踏まえ、平成25年度まで小中一貫教育の成果の検証と改善を積み重ねてきたが、平成26年度から5年間の教育課程特例校の継続について承認を受けた。また、平成26年度から、熊本市小中一貫教育検討委員会を発足させ、本市におけるこれらの小中一貫教育のあり方について検討している。平成28年度は、江南中学校区を幼小中連携のモデル校に指定し、小中一貫教育を見据えた連携のあり方について研究・実践を開始した。

■高等学校及び専門学校の活性化の推進

本市は、普通科と普通科3コースを有する熊本市立必由館高等学校（全日制高等学校）、普通科2コースと情報科コースを有する熊本市立千原台高等学校（全日制高等学校）、そして熊本市立総合ビジネス専門学校（商業系専門学校）を設置している。

社会の進展に対応し、生徒のニーズに応じた多様な教育及び特色ある学校づくりを推進するために、魅力あるカリキュラムの編成と教育内容の充実に努めるとともに、教職員研修の充実を図る。

■熊本市立必由館高等学校



○生徒数（平成28年5月1日現在）

	1年	2年	3年	計
普通科	241	237	238	716
普通科国際コース	40	40	35	115
普通科芸術コース	40	39	39	118
普通科服飾デザインコース	40	39	38	117
計	361	355	350	1,066

◇沿革

明治44年	4月	熊本市立実科高等女学校として開校 修業年限2ヵ年
大正11年	4月	熊本市立高等女学校と校名変更 修業年限4ヵ年とする
昭和6年	2月	現在地に校舎新築移転
昭和23年	4月	熊本市立女子高等学校と校名変更 普通科、被服科併設の総合高校となる
昭和24年	4月	熊本市立高等学校と校名変更、男女共学となる
昭和32年	4月	商業科設置
昭和34年	4月	商業科が熊本市立商業高等学校として独立
昭和42年11月		創立55周年並びに校舎落成記念式典を挙げる
昭和48年	4月	男子生徒106名が15年ぶりに入学する
平成13年	4月	熊本市立必由館高等学校へ校名変更 被服科廃止、校名披露・創立90周年記念式典を挙げる
平成19年10月		新校舎落成記念式典を挙げる
平成23年11月		創立100周年記念式典を挙げる

◇教育目標

校訓「至誠・進取・和敬」のもと、気品と節度ある態度を養い、正しい判断力と実践力を身に付けた、社会に貢献できる心豊かな生徒の育成を目指している。

平成13年度から普通科国際コース、芸術コース、服飾デザインコースを設置して、生徒の適性や能力を生かした教育を実践し、一人一人の生徒の進路目標の達成を目指して、学力充実に努めている。

◇各コースの主な活動・実績（平成27年度）

<国際コース>

- ・ 6月 平成26年度サンアントニオ市派遣留学生、2名帰国
- ・ 7月 平成27年度熊本市・サンアントニオ市交換留学生事業合同説明会
- ・ 7月 1年生国内英語研修：福岡県宗像市（2泊3日）
- ・ 8月 中国・桂林市友好訪問団として本校生2名が参加して交流
- ・ 8月 平成27年度サンアントニオ市派遣留学生2名出発（平成28年5月末まで）
- ・ 11月 フランスのエクサンプロヴァンス・ヴォヴナール高校訪問団来校、生徒間交流
- ・ 2月～3月 平成28年度サンアントニオ市派遣留学生選考

※ 英語検定準備・実施 6月、10月、1月 英検2級20名合格

<芸術コース（音楽系）>※一部抜粋

- ・ 6月 公開テスト（成果発表会）
- ・ 7月 2015年度 ピティナ・ピアノコンペティション南九州地区本選（F級奨励賞1名）
- ・ 8月 中学生の体験入学（63名参加）
- ・ 8月 第30回八代青少年音楽コンクール 声楽部門（銅賞1名）
- ・ 8月 第32回熊本県高等学校ピアノコンクール（金賞1名、銀賞1名）
- ・ 8月 第41回熊本県高等学校独唱コンクール（金賞3名、銀賞2名、銅賞1名）
- ・ 8月 第28回熊本県高等学校管・打楽器独奏コンクール
金管部門（金賞2名）、木管部門（銀賞1名）、打楽器部門（銀賞1名）
- ・ 8月 第7回東京国際声楽コンクール（西日本准本選出場1名）
- ・ 9月 第39回全九州高等学校音楽コンクール熊本県代表選考会 金管部門（優秀賞2名）
- ・ 9月 第6回香港青少年音楽コンクール日本予選（優秀賞1名）
- ・ 10月 第69回滝廉太郎記念全日本声楽コンクール出場1名
- ・ 10月 公開テスト（成果発表会）
- ・ 11月 第39回全九州高等学校音楽コンクール 声楽部門（銅賞1名）
- ・ 12月 第48回熊日学生音楽コンクール
ピアノ部門、弦楽器部門（各部門優秀賞1名）、独唱部門、打楽器部門（各部門優良賞1名）
- ・ 1月 第11回JBAソロコンテスト 金管部門、打楽器部門（各金賞1名）、打楽器部門（銅賞1名）
- ・ 2月 公開テスト（成果発表会）

<芸術コース（美術系）>※一部抜粋

- ・ 7月 全国総合文化祭、県下高校生写生大会への参加
- ・ 8月 基礎力向上のための実技講習会（4日間）
- ・ 11月 2年生京都写生旅行
- ・ 1月 卒業制作展（県立美術館分館）
- ・ 2月 市役所1階ロビーでの作品展示（美術・書道）
- ・ 第78回銀光展（三点鍾賞1名、他入選多数）
- ・ 第19回熊本県高等学校写生大会（特選10名 準特選5名、入選8名）

- ・第70回熊本県美術協会展 洋画部門（奨励賞1名、他日本画、デザイン部門の入選7名）
- ・くまもと「描く力」2015 チャレンジ部門（優秀賞2名、入選3名）
- ・第51回記念熊本県水彩画会展
（県文化協会賞1名、FMK賞1名、KAB賞1名、奨励賞1名、入選3名）
- ・第59回西日本読書感想画コンクール（佳作3名、入選2名）
- ・第40回記念熊本県高等学校美術展
（最優秀賞・全国大会県代表1名、優秀賞・九州大会県代表2名、優秀賞5名）
- ・第22回日本高校生デザイングランプリ
（審査員特別賞1名、デザイン賞1名、奨励賞2名、入選10名、佳作12名、優秀学校賞受賞）
- ・第39回九州青年美術公募展 奨励賞2名、入選9名

＜芸術コース（書道系）＞※一部抜粋

- ・熊本県高等学校揮毫大会において、団体の部12年連続団体優勝
- ・文部科学省後援書写検定全員合格、毛筆・硬筆準1級2名合格
- ・1月卒業制作展（熊本県立美術館分館）
- ・第34回熊日新鋭書道展（グランプリ1名）
- ・第21回九州高文連揮毫大会（第一席1名）
- ・第42回学生学童書道展 条幅の部、半紙の部（各放送局賞多数）
- ・第15回豊岡全国かな書展
（兵庫県知事賞、兵庫県教育委員会賞、豊岡市賞、第15回記念賞、各1名）
- ・第22回熊本県高等学校紙上展（会長賞1名、大賞2名）
- ・第56回熊日書道展（秀作1名、入選12名）
- ・第37回読売学生書展（読売準大賞、沖縄県知事賞、熊本県知事賞、大分県教育委員会賞、大分市賞、長崎市教育委員会賞、宮崎市教育委員会賞、熊本県教育委員会賞、熊本市賞、各1名）
- ・第6回熊本県新春学生書道展（書道連盟賞1名）

＜服飾デザインコース＞※一部抜粋

- ・5月～7月 マナー検定に向けての特別講義
- ・6月 編み物特別講座 講師：紫垣郁子先生
- ・6月 社会見学研修 博多座「歌舞伎」観劇
- ・7月 中学生体験入学（中学生238名参加）
- ・8月 第70回県美展 工芸部門出展 染額（入選5名）
- ・8月 高校生対象職業理解推進講座（文化服装学院） 1名参加
- ・9月 文化祭展示・ファッションショー発表
- ・9月 コース特別講義「社会人としてのマナー」
- ・10月 第37回熊本県・市中学校技術・家庭科展出品展示 約70点を展示
- ・11月～12月 染色特別講義 講師：高津明美先生
- ・1月 コース発表会（鶴屋ホール） 生徒実行委員を中心に1年間の学習の成果をファッションショー及び展示により発表した。服飾デザインコースの生徒としての自覚とともに3学年の連携と団結を密にするよい機会となった。
- ・3月 作品集「輝いて私たち」及びDVD発行

◇進路状況（現役のみ実数）

進路先 卒業年度	23年	24年	25年	26年	27年
国 公 立 大 学 等	35	55	30	23	32
私 立 大 学 等	153	154	182	190	153
短 期 大 学	29	24	21	24	24
高 等 看 護 学 校	8	19	11	16	15
専 修 各 種 学 校 等	79	72	83	75	93
進 学 計	304	324	327	328	317
就 職	20	8	8	10	18
そ の 他 未 定	21	10	16	14	14
合 計	345	342	351	352	349

◇部活動

- ・文化部 美術、演劇、書道、音楽、写真、J R C、放送、文芸、新聞、吹奏楽、箏曲、化学、茶道、煎茶道、和太鼓、和装文化、服飾デザイン、華道同好会
- ・体育部 陸上、剣道、弓道、水泳、新体操、女子バレーボール、男女バスケットボール、卓球、男女ハンドボール、ソフトボール、テニス、ソフトテニス、バドミントン、サッカー、野球

◇部活動の主な実績（平成27年度）

※音楽部、美術部、書道部、服飾デザイン部はコースの実績を参照

< J R C 部 >

- ・熊本ナマステの会「ネパールに学校を贈ろう運動」
- ・生徒対象の救急法講習会の開催
- ・青少年赤十字行事の第6（九州）ブロック海外派遣事業（ベトナム）1名参加
- ・各種募金活動

< 写真部 >

- ・平成27年度熊本県高等学校文化連盟写真部春期・前期・後期コンテスト（入選各1名）

< 放送部 >

- ・NHK杯全国放送コンテスト熊本県大会 朗読部門出場

< 吹奏楽部 >

- ・九州吹奏楽コンクール熊本県予選（銅賞）

< 和太鼓部 >

- ・第39回全国高等学校総合文化祭 郷土芸能部門（3位）
- ・日本太鼓ジュニア県予選 9年連続優勝
- ・熊本県ユニセフ協会「アフリカの子どもの日」レセプション、熊本市成人式オープニング等で数多く演奏

< 和装文化部 >

- ・きもの装いコンテスト世界大会 学校対抗の部（2位）

< 陸上競技部 >

- ・平成27年度熊本県高等学校総合体育大会
男子400m（6位） 男子4×400mリレー（8位）
女子100m（優勝） 女子200m（優勝） 女子走幅跳（優勝） 女子100mハードル（6位） 女子4×100mリレー（4位） 女子4×400mリレー（5位）

- ・平成27年度全国高等学校陸上競技対校選手権大会南九州大会
女子100m（2位）女子200m（優勝） 女子走幅跳（5位）
- ・全国高等学校総合体育大会 女子200m（4位） 女子走幅跳出場
- ・わかやま国民体育大会 女子少年A100m（4位）

<剣道部>

- ・平成27年度熊本県高等学校総合体育大会 男子団体（3位） 女子団体（ベスト8）
- ・平成27年度県下高等学校新人剣道大会 男子団体（準優勝） 男子個人（ベスト8 2名）

<弓道部>

- ・平成27年度熊本県高等学校総合体育大会 女子団体の部 5位
- ・第14回熊本市民スポーツフェスタ 女子個人の部 優勝

<女子バレーボール部>

- ・第26回全九州選抜高等学校バレーボール大会出場
- ・平成27年度熊本県高等学校総合体育大会 第3位
- ・西九州高等学校バレーボール大会 第3位

<女子バスケットボール部>

- ・1年生大会 ベスト4
- ・新人戦 ベスト8

<野球部>

- ・全国高校野球選手権熊本大会 ベスト16

◇教職員研修（平成27年度実績）

- ・熊本市立高等学校・総合ビジネス専門学校三校合同人権教育研修会
- ・進路指導、生徒指導、教務主任、教育課程研究協議会、初任者研修、10年経験者研修は熊本県教育委員会に依頼して実施。

■ 熊本市立千原台高等学校



○生徒数（平成28年5月1日現在）

	1年	2年	3年	計
普通科 国際経済コース	40	41	37	118
普通科 健康スポーツコース	41	40	40	121
情報科 OA会計コース	80	81	80	241
情報科 経営情報コース	41	41	40	122
計	202	203	197	602

◇沿革

- 昭和32年 4月 熊本市立高等学校に商業科設置
- 昭和34年 4月 熊本市立高等学校から商業科が分離独立 熊本市立商業高等学校となる通学区は熊本市内
- 昭和39年 4月 現在地に校舎新築移転
- 昭和43年11月 創立10周年及び校舎・体育館落成記念式典を挙行
- 昭和46年 4月 通学区が県下全域となる
- 昭和49年 4月 男女共学実施 女子50名が入学
- 昭和63年 4月 情報処理科新設
- 平成12年 4月 熊本市立千原台高等学校に校名変更

平成14年 5月 体育館落成
 平成19年11月 創立50周年記念式典を挙
 平成24年 8月 第1期校舎建替工事着工
 平成26年 1月 校舎新築のための第1期工事竣工

◇教育目標

- ・心豊かな人間性や社会性を持ち、国際的な視野に立って健全な社会の発展に寄与することのできる人材を育成する。
- ・自主的・自発的精神を持ち、自らの課題に積極的に取り組み、問題解決を図っていくことのできる人間を育成する。
- ・社会生活に必要な基礎的知識や技術及び適正な判断力と実践力を身に付け、責任感と協調性に富む人物を育成する。

◇各コースの主な活動・実績（平成27年度）

<健康スポーツコース>

- ・スポーツ概論（スポーツの歴史や特徴、効果的な学習方法、指導法や運営管理について学ぶ）
- ・スポーツ総合演習（スポーツの知識や実践に関する課題研究及びプレゼンテーション）
- ・スポーツⅠ・Ⅱ（部活動と連動させた競技力向上のための取り組み）

<国際経済コース>

- ・実用英語検定合格者 2級2名 準2級13名 3級23名
- ・第32回全国商業高等学校英語スピーチコンテスト熊本県予選レシテーションの部 1年生1名出場優秀賞受賞
 スピーチの部 1年生1名出場、最優秀賞受賞、熊本県代表として全国大会出場、決勝進出
- ・熊本県高等学校英語暗唱大会 2年生1名出場
- ・サンアントニオ市との交換留学 インカーネートワード高校へ 2年生2名
- ・ハイデルベルク市友好訪問団受入 2年生2名

<OA会計コース>

- ・外部講師招聘授業（簿記検定試験対策）
- ・土曜講座（簿記検定試験対策）
- ・千原台マーケット（商品販売実習）

<経営情報コース>

- ・外部講師招聘授業（ITパスポート試験対策）
- ・土曜講座（ITパスポート試験対策）
- ・千原台マーケット（商品販売実習）

◇進路状況（現役のみ実数）

進路先 \ 卒業年	23年	24年	25年	26年	27年
国公立大学等	0	1	1	0	1
私立大学等	45	51	50	46	51
短期大学	6	5	8	8	6
高等看護学校	6	4	4	4	6
専修各種学校等	73	66	71	65	61
進学計	130	127	134	123	125
就職	43	57	37	52	63
その他未定	8	8	20	9	11
合計	181	192	191	184	199

◇部活動

- ・文化部 英会話、ワープロ、パソコン、ライフサイエンス、ボランティア、簿記会計、吹奏楽、書道同好会、イラスト愛好会
- ・体育部 ハンドボール、女子バレーボール、バスケットボール、サッカー、陸上、バドミントン、野球、柔道、卓球、自転車競技、弓道、剣道同好会、水泳愛好会、ダンス愛好会

◇部活動の主な実績（平成27年度）

<ハンドボール部>

- ・平成27年度全九州高校ハンドボール競技大会熊本県予選 男子ベスト8 女子3位
- ・平成27年度熊本県高等学校総合体育大会 男子ベスト8 女子3位
- ・平成27年度九州ブロック国体 少年女子3位（1名選出）
- ・平成27年度第70回国民体育大会 少年女子5位（1名選出）
- ・平成27年度全国高校ハンドボール選抜大会熊本県予選 男子：3位 女子：4位
- ・本校2年元松晃子が日本代表女子U-16に選考合宿に参加

<陸上競技部>

- ・平成27年度熊本県高等学校総合体育大会
男子1500m 優勝、男子5000m 優勝・6位、男子3000mSC 3位
- ・平成27年度全国高等学校陸上競技対校選手権大会南九州地区予選大会
男子5000m 6位、男子3000mSC 2位
- ・平成27年度全九州高等学校陸上競技対校選手権大会熊本県予選大会
男子5000m 3位、女子1500m 3位、女子3000m 2位・4位
- ・平成27年度熊本県高校男子駅伝 2位、平成27年度熊本県高校女子駅伝 6位
- ・平成27年全九州高等学校駅伝大会5位（南九州地区代表権獲得）
- ・平成27年全国高校男子駅伝大会出場

<自転車競技部>

- ・平成27年度全国高等学校選抜自転車競技大会
ケイリン 3位 ロードレース 2位 ロードレース（女子） 2位
- ・平成27年度全国高等学校総合体育大会自転車競技会
ケイリン 7位
- ・平成27年度全九州高等学校体育大会自転車競技大会
4km チームパーシュート 6位 ポイントレース 6位 1km タイムトライアル 4位
4km 速度競争 4位 ケイリン 8位 ロードレース 2位
- ・平成27年度熊本県高等学校総合体育大会自転車競技大会

総合優勝 スプリント 2位・3位 1km タイムトライアル 3位・6位
 4km 速度競争 1位・5位 3km インディヴィデュアルパーシュート 4位・6位
 ポイントレース 2位・3位・5位 ケイリン 1位・6位
 チームスプリント 3位 ロードレース 1位・2位 4km チームパーシュート 2位

＜野球部＞

- ・第137回九州地区高校野球熊本大会 ベスト8
- ・熊本市内1年生大会 ベスト4

＜吹奏楽部＞

- ・第59回熊本県吹奏楽コンクール 高等学校Bパート 銅賞

＜ボランティア部＞

- ・第23回アフリカの子どもの日 in Kumamoto 実行委員、赤い羽根共同募金活動
- ・第19回ボランティア・スピリット 九州地区コミュニティ賞受賞（個人）
- ・城西小正門前挨拶運動（平成21年11月から月1回実施）
- ・井芹川クリーン大作戦 83名参加
- ・ユニセフハンド・イン・ハンド（全国一斉年末募金活動）
- ・白羊保育園ふれあいボランティア（平成21年11月から、毎週水曜日と金曜日の放課後に実施）
- ・島崎サマーフェスティバル実行委員 51名参加
- ・熊本城マラソンボランティア 56名参加
- ・第7回オハイエ熊本とおきの音楽祭

◇平成27年度情報科の上級資格取得者数

- ・経済産業省 情報処理技術者試験（ITパスポート）20人
- ・日本商工会議所簿記検定試験 2級 6人
- ・全国商業高等学校協会主催情報処理検定試験 1級 39人

◇教職員の研修（平成27年度実績）

- ・熊本市立高等学校・総合ビジネス専門学校3校合同人権教育研修会
- ・進路指導、教務主任、生徒指導、環境教育担当者研修、経験者研修は、熊本県教育委員会に依頼し、県立高等学校職員研修計画のもとで実施。

■熊本市立総合ビジネス専門学校



○生徒数（平成28年5月1日）

	1年	2年	計
総合ビジネス科	66	60	126
OA経理科	10		10
計	76	64	136

◇沿革

- 昭和24年 4月 熊本市立商業実務員養成所創設
- 昭和30年 4月 各種学校として認可
- 昭和31年 3月 熊本市宮内町に移転
- 昭和34年 4月 熊本市立実務商業学校と改称
- 昭和50年 4月 昼間部の学級編成を変更
- 昭和54年 4月 専修学校認可 熊本市立実務商業専門学校と改称

- 平成 3 年 4 月 総合ビジネス科（高卒 2 年制の専門課程）を設置し、現校舎に移転
熊本市立総合ビジネス専門学校へ改称
- 平成 7 年 1 月 総合ビジネス科卒業生に「専門士」（商業実務専門課程）の称号の付与認可
- 平成 9 年 7 月 公開講座開始（ワープロ・パソコン）
- 平成 11 年 11 月 創立 50 周年記念式典・同窓会祝賀会
- 平成 12 年 4 月 経理科廃止
- 平成 19 年 4 月 「総合ビジネス科（昼間）」経理ビジネスコース、経理情報コース、観光サービスコース、「OA 経理科（夜間）」と改編
- 平成 21 年 11 月 創立 60 周年記念式典同窓会祝賀会

◇教育目標

<総合ビジネス科（修業期間 2 年）>

- ・経理ビジネスコース：高度の簿記会計科目を中心に学び、経理・総務・営業事務等を担当するための幅広く、高度なビジネス実務能力をもった人材を育成する。
- ・経理情報コース：簿記やビジネス実務とともに、高度なパソコン利用技術を学び、広いビジネス実務に適応できる事務処理能力をもった人材を育成する。
- ・観光・サービスコース：ホテル、旅行業などの科目に実習も取り入れ、観光・サービス業に関する事務能力を高め、コンベンション都市を支える人材を育成する。

<OA 経理科（修業期間 1 年 夜間）>

- ・一般社会人を対象として、簿記会計、パソコン、ワープロ、電卓等の知識・技能を養う。

◇教職員の研修（平成 27 年度実績）

- ・熊本市立高等学校・総合ビジネス専門学校 3 校合同人権教育研修会

◇進路状況（卒業年度の 3 月末現在）

- ・卒業生数

卒業年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
総合ビジネス科	67	58	66	63	63
OA 経理科	5	10	8	11	7

- ・業種別進路

卒業年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
建設業	3	2	7	0	6
製造業	1	17	9	2	7
運輸・通信業	3	3	0	7	4
卸売・小売業	12	8	14	13	10
金融・保険業	0	0	2	0	0
サービス業	24	23	20	34	27
その他	1	0	0	0	2
小計	44	53	52	56	56
未定	18	1	12	2	2
自己就職・進学他	5	4	2	3	5
合計	67	58	66	61	63

・職種別進路（自己就職・進学他を除く）

卒業年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事 務	33	39	39	30	33
営業・販売	2	5	2	8	6
技 能	0	1	0	0	6
サービス	8	7	4	16	9
そ の 他	1	1	7	2	2
合 計	44	53	52	56	56

・就職内定率（％）（年度毎の集計は、卒業翌月の4月30日現在）

卒業年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
総合ビジネス科	83.1	98.1	95.1	96.6	96.6

○最近の主な就職先一覧（過去5年間）

建設業	皆楽園、光進建設、多田産業、大津建設工業、木村建設、永伸、小城板金金属工業、こざき、コスモホーム、西日本システム建設、ミナミ冷設、愛住宅、アズマシティ開発、伸和住拓、山本建設
製造業	九州ショーワ、ハーネス・イシハラ、フュージョン、三栄工業、バド・プレスト、愛三熊本、ウルトラハウス、お菓子の香梅、再春館製薬所、不二宮製作所、熊本シール工業、ふくとく大成、エイムテック、有明グリーンエネルギー、九州クラフト工業、シンエイ産業、ソリューション、リンクライン
運輸・通信業	フクワ物流、旅行綜研、九州旅客鉄道、農協観光、JR九州旅行、熊本製粉ロジスティクス、日本郵便、ODA、ソフトバンク、ベアールートシステム
卸売・小売業	阿蘇中央薬局、あまくさ、えがお、大木商店、岸工業九州、ケイワード九州、ジョイフル、新生堂、ハウディ、古荘本店、Misumi、ケースホールディングス、ジャパンイマジネーション、善徳丸建材、嶽本薬局、ネッツトヨタ中九州、ノバラ、おすそわけ村、三興バルブ継手、SHIN-EI、タケシタ調剤薬局、東光石油、トヨタ L&F 熊本、トライアルカンパニー、ドラッグミユキ、日創建材、ネッツトヨタ熊本、橋本屋、フクダ電子西部南販売、ARROWS、熊本トヨペット、植木青果市場、ジーユー、大鷲屋、ドゥヨネザワ、マナビインテリアハーツ、むつみ企画、キュートグループ、熊青西九州青果、熊本ヤクルト、コメリ、JA 宇城、双葉、マックスバリュ九州、OneFlower
金融・保険業	くまもと共済、西日本チケット
サービス業	アートワーク、愛誠会、アズマシティ開発、エコポート九州、加藤神社、上熊本経営センター、菊池観光ホテル、熊本ホテルキャッスル、JA かみましき、JTB グローバルアシスタンス、アドルーム、柴田内科・柴田整形外科、中村哲也税理士事務所、ニチイ、ひらの歯科医院、牧野皮膚科医院、マツオカ法律事務所、三森循環器科呼吸器科病院、優彩、湯前木材事業協同組合、レ・デ・モ帯山中央病院、熊本計算センター、ANA クラウンプラザホテル熊本ニュースカイ、JA 阿蘇、大劇、第2さくら体育幼稚園、にのみや歯科医院、ホテルニューオータニ熊本、ホワイト歯科、ヤマイ、ゆうしん、MSS、キャリアサポート、熊本泌尿器科病院、経営合理化研究所、JTB 熊本リレーションセンター、東臣、ひなた、松見内科クリニック、未来税務会計事務所、守田税理士事務所、メルパルク、アニス、植田観光、エース観光開発、熊本厚生事業福祉会、熊本清掃社、彩巧堂、サウスポイント、JR 九州ホテルズ、仁誠会クリニック、セドナエンタープライズ、岱明幼稚園、田上事務所、トータルメディア開発研究所、トヨタレンタリース熊本、ネオエンタープライズ、ベアールートシステム、マリーゴールド、萬生会、赤塚智哉税理士事務所、いとう歯科医院、おしゃれクリーニングホワイト急便、上ノ郷保育園、九州中央トラベル、コスモス保育園、城の湯、セルモ、原眼科、ふわわ保育園、ホテル日航熊本、山一観光、よねむら歯科
公務その他	氷川土地改良区

(ウ) 少人数学級・少人数指導の充実

■少人数学級・少人数指導

子ども一人一人の個に応じたきめ細かな指導を行うため、少人数学級や少人数指導を実施している。

35人学級の導入時期

学 年	導入時期
小学校1年	平成15年度
小学校2年	平成16年度
小学校3年	平成18年度
小学校4年	平成19年度
中学校1年	平成21年度

◇少人数学級の具体的な取組

- ・1学級の子どもの数の上限を40人より少なくする少人数学級を実施している。

※小学校1年生の学級編制の標準を35人に引き下げ、35

人以下学級を推進すること等の法律が改正され、平成23年度から全国的に実施されている。

- ・平成15年度から35人学級（1学級の子どもの数の上限が35人）を段階的に導入し、現在では、小学校1～4年生と中学校1年生の全学級で35人学級を実施している。

※小学校1・2年については、県下全小学校で35人学級を実施

◇少人数指導の具体的な取組

- ・1つの学級の授業を複数の教師が行ったり（ティーム・ティーチング）、1つの学級を複数に分けて各々の教師が授業を行ったりする。
- ・公開授業を実施するほか、少人数指導における運営の在り方や指導法の研究に取り組み、共有化を図る。また、広報紙やホームページの動画配信等を通し、多くの教職員が様々な場で学べるようにする。
- ・平成26年度から小学校、中学校で少人数指導の研究モデル校を指定し、指導方法工夫改善加配の教員を活用した少人数指導法の実践研究を実施している。

(エ) 理数教育の充実

■理数教育の充実

理科や算数・数学などを学ぶことの意義や楽しさを実感させ、基礎的・基本的な学習内容の習得と、思考力・判断力・表現力等を育てるための活用に向けて、授業等の改善に努める。そのために、次のような視点で具体的な取組を進めていく。

- ・導入から結果・考察、結論まで、子どもの思考がつながる授業の推進
- ・観察・実験等の体験的な活動の充実による、わかる授業の推進
- ・比較や分類、関連付けといった考えるための技法、帰納的な考え方や演繹的な考え方などを活用して説明する。
- ・仮説や予想を立てて、観察・実験を行い、その結果を考察し、表現する。
- ・「ものづくり」を通したり、「日常生活」と関連させたりする授業の推進
- ・理科実験事故防止講習会等の研修の充実

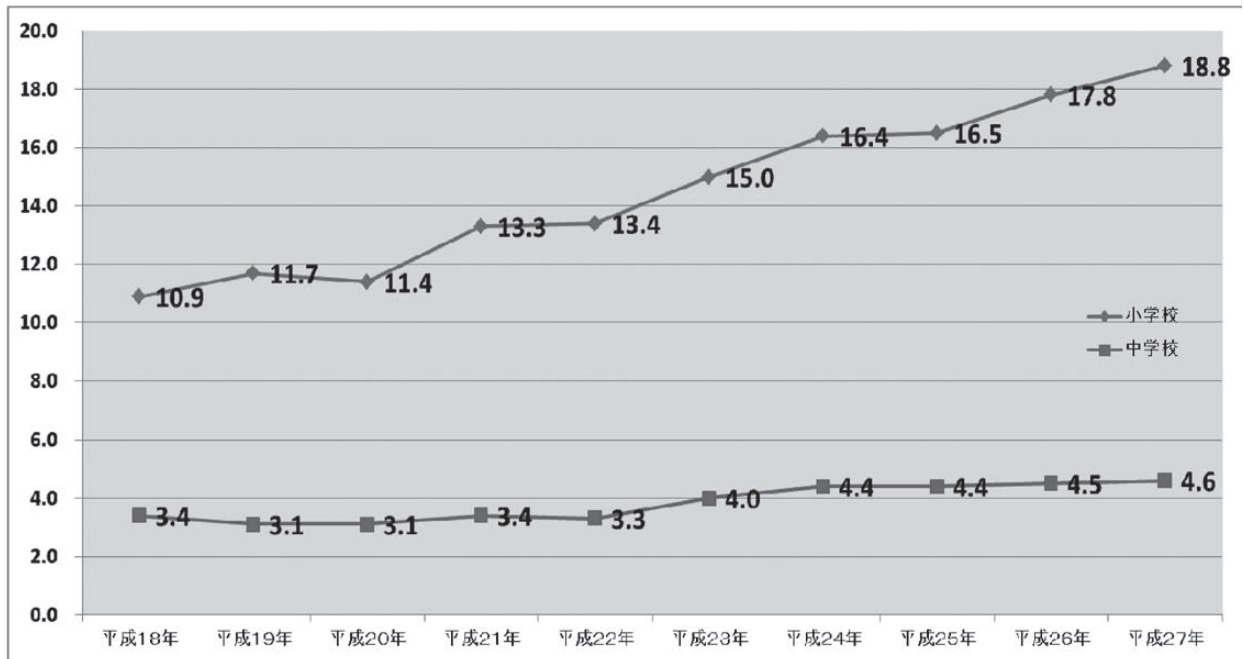
②学校図書館の充実

(ア) 学校図書館の効果的な活用

■学校図書館司書業務補助員配置

学校図書館の機能の充実と円滑な運営を期するため、図書館主任や司書教諭の補助として、図書館業務にあたる司書業務補助員を、平成12年度から市立全小・中学校に配置している。

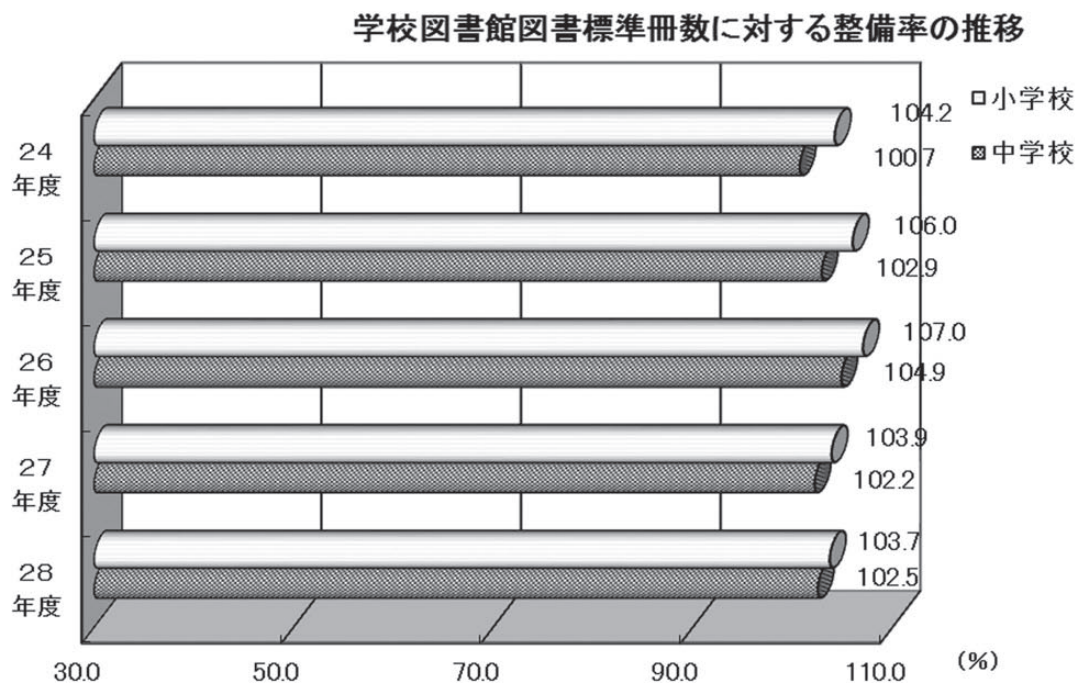
＜４月～６月における１人あたりの館外貸出冊数＞（単位：冊）



■蔵書購入

文部科学省が定める「学校図書館図書標準」に基づき、全校が１００％を達成するよう蔵書の充実を図っている。図書購入費（平成２７年度）：小学校１校あたり平均４４万円、中学校１校あたり平均４４万円。

＜学校図書館図書標準冊数に対する整備率の推移＞



（イ）学校図書館支援センターの推進

■学校図書館支援センター推進事業

庁内関係部署との連携のもと、学校図書館支援センターを中核にして、蔵書データベースと情報

ネットワークの管理、図書物流システムの運営など、学校図書館や市立図書館・公民館等図書室の図書を活用した授業支援や読書活動を推進している。

このことにより、学校や家庭における子どもの読書活動を支援し、子ども達が本に触れ、本に親しむ機会を創出している。

◇これまでの主な実績

- ・平成13年度 学校図書館蔵書のデータベース化、図書の検索・貸出の電算化
- ・平成14年度 学校図書館及び市立図書館・公民館図書室の共通利用カードの発行
- ・平成14・15年度 研究実践協力校43校による図書資料の流通試行
- ・平成14～16年度 「物語定期便」用図書の購入
- ・平成16年度 市内全小中学校117校における図書資料の流通開始
- ・平成16年度～ 調べ学習フェスタ（平成21年度から調べ学習コンクール）の実施
- ・平成17年度 読書活動ホームページの開設
- ・平成18年度 学校図書館支援センターの開設
- ・平成20年度 学校図書館支援センター事務局を市立図書館に移行
- ・平成21年度～ 小学校低学年向けの良書を紹介した冊子「としょかんへおいでよ」の作成と配布
- ・平成23年度～ 新しくなった「物語定期便」の学校間巡回開始
- ・平成27年度～ 小学校中学年・高学年と中学生向けの良書を紹介したリーフレットの作成と配布及び掲載図書の購入

◇主な事業

・物語定期便

市立図書館が管理する、1セット120冊の物語図書等を「物語定期便」として各学期内に4週間に1回の周期で各学校に貸し出している。

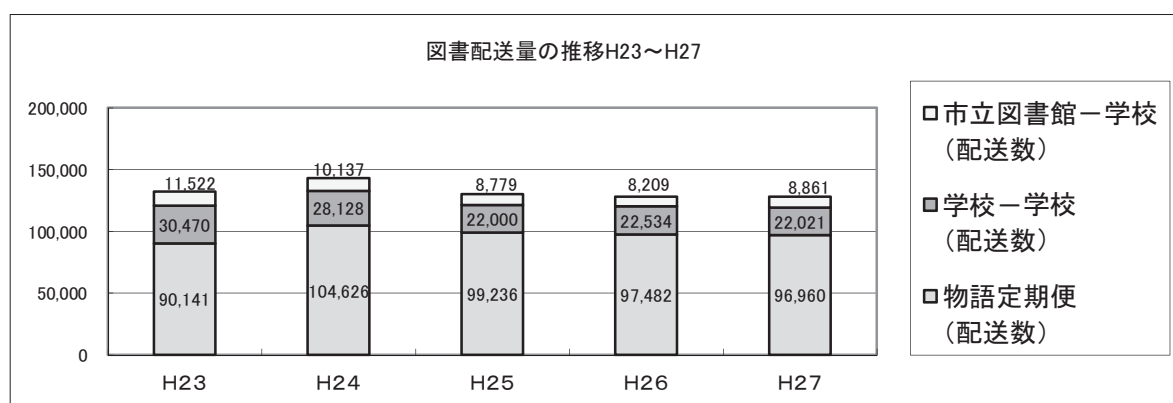
なお、長年の使用に伴い、平成22年度に各学校の学校図書館司書業務補助員等が選書を行い、物語定期便用図書の買い替えを行った。

・リクエスト便

調べ学習用の図書や物語図書等を児童生徒、教職員のリクエストに応じて、他校や市立図書館・公民館図書室等から貸借するしくみのことで、書名を決めて依頼する「書名リクエスト」と、単元やテーマ等により依頼する「テーマリクエスト」の2種類の依頼方法を実施している。

このほか、「特別支援学級図書セット」、「郷土資料セット」といったパッケージ化した図書資料のセットのリクエストも受け付けている。

(単位；冊)



③就学支援の充実

■就学援助費

経済的な理由によって、就学が困難と認められる児童生徒の保護者に対して、学用品費、学校給食費等の援助を行っている。

		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
小学校	児 童 総 数	41,863	41,338	40,924	40,934	40,790
	認 定 者 数	5,646	5,689	5,645	5,715	5,889
	認 定 率	13.5%	13.8%	13.8%	14.0%	14.4%
	就 学 援 助 費 支 給 実 績 (単 位 : 千 円)	360,125	363,744	366,718	400,147	413,238
中学校	生 徒 総 数	20,553	20,417	20,531	20,332	20,271
	認 定 者 数	3,213	3,354	3,422	3,411	3,476
	認 定 率	15.6%	16.4%	16.7%	16.8%	17.1%
	就 学 援 助 費 支 給 実 績 (単 位 : 千 円)	324,738	338,427	348,653	366,945	373,273
合 計	児 童 生 徒 総 数	62,416	61,755	61,455	61,266	61,061
	認 定 者 総 数	8,859	9,043	9,067	9,126	9,365
	認 定 率	14.2%	14.6%	14.8%	14.9%	15.3%
	就 学 援 助 費 支 給 実 績 (単 位 : 千 円)	684,863	702,171	715,371	767,092	786,511

※ 児童数及び生徒数は、5月1日現在の児童生徒数、認定者数は決算時認定者数

■奨学金貸付事業

経済的理由により修学が困難な生徒、学生等に対して奨学金の貸付けを行い、社会に貢献し得る人材の育成を図ることを目的に、平成14年度から開始された制度である。また、平成20年度から新たに、家計の急変等を対象とした奨学金の貸付けを実施している。

◇貸付対象者 次の要件をすべて満たす者であること。

- 1 本市に居住する者の被扶養者であること。
- 2 学校教育法に規定する高等学校、高等専門学校、短期大学、大学又は専修学校の高等課程若しくは専門課程（以下「学校等」という。）に在学していること。
- 3 経済的理由により修学が困難であると認められること。
- 4 国、他の地方公共団体若しくはその他の団体からの奨学金又はこれと同種の貸付け若しくは給付（高等学校等就学支援金、熊本県奨学のための給付金及び災害等に伴い特別な措置によって一時的に支給され、修学のため充てられるものを除く。）を受けていないこと。
- 5 家計の急変等（火災・風水害等、破産、失職、死亡、入院、離婚）の該当者であること。

※ 5の要件は、家計の急変等を対象とした奨学金の貸付けの場合のみ。

◇定数及び貸付月額

区 分	定数	貸 付 月 額
高等学校、高等専門学校、専修学校（高等課程）	380人	国・公立 18,000円 私立 30,000円
大学、短期大学、専修学校（専門課程）		国・公立 42,000円（48,000円） 私立 51,000円（61,000円） ※（ ）は自宅外通学生

※第1学年の生徒、学生等には初回貸付時に加算あり。

◇貸付期間 在学する学校等の正規の修学年限（最終月）。ただし、家計の急変等を対象とした奨学金の貸付けは、申請した日の属する月から申請をした日の属する年度の3月まで。

◇返還貸付終了後6ヶ月を経て返還開始。貸付けを受けた総額を年賦・半年賦・月賦のいずれかの方法で返還（無利子）。

◇貸付実績

区 分 \ 貸付年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
高等学校、高等専門学校、 専修学校（高等課程）	220人	266人	222人	222人	199人
大学、短期大学、 専修学校（専門課程）	136人	113人	109人	96人	84人
合 計	356人	379人	331人	318人	283人

■特別支援教育就学奨励費

特別支援教育の振興を目的に、特別支援学級等に在籍又は通級指導教室に通学する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、学用品費、通学費等の支給を行っている。

		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
小学校	児 童 総 数	41,863	41,388	40,924	40,934	40,790
	対 象 者 数	1,330	1,405	1,492	1,604	1,729
	認 定 者 数	703	781	784	838	867
	奨 励 費 額（単位：千円）	15,103	15,904	16,515	18,925	19,783
中学校	生 徒 総 数	20,553	20,417	20,531	20,332	20,271
	対 象 者 数	374	420	448	476	473
	認 定 者 数	227	252	269	263	253
	奨 励 費 額（単位：千円）	9,621	10,950	11,949	11,114	9,791
計	総 数	62,416	61,755	61,455	61,266	61,061
	対 象 者 数	1,704	1,825	1,940	2,080	2,202
	認 定 者 総 数	930	1,033	1,053	1,101	1,120
	奨 励 費 額（単位：千円）	24,724	26,853	28,464	30,039	29,574

※児童数及び生徒数は、5月1日現在の児童生徒数、認定者数は決算時認定者数（城南・植木含む）

■私立学校助成

◇市内に私立高等学校を設置する学校法人に対して、教職員の資質を高めるため教職員の研修・研究に要する経費の一部を補助し、私学の振興を図っている。

・年間助成額 学校法人 13法人 31,529千円

◇市内に私立高等学校を設置する学校法人に対して、部活動に係る費用の一部を補助し、部活動を通じた高校生の健全な育成を図っている。

・年間助成額 学校法人 13法人 15,820千円

④教職員研修の充実

■自己啓発の活性化を支援する研修の推進

広い視野と使命感、専門的知識や能力をもった教職員を育成し、教職員力（マネジメント力・実践

的指導力・教師としての基盤)の向上を図るために、教職員の研修の場と機会を確保するとともに研修内容の充実を図る。

キャリアステージと

基礎期(1～3年)

基礎基本の力を身につける

向上期(4～)

協働して自らの

教職員力

マネジメント力

先輩の指導を受けながら、組織の一員として誠実に職務を遂行する力を身につける。

組織に貢献しよう
実践力の向上に努め、
がら着実に業務を遂
づける。

実践的指導力

学習指導・生徒指導に関する職務の基礎的な理解及び基礎的な指導技術や技能を習得する。

自らの実践を省察
て、実践的・専門的
習得し、学び続ける

教師としての基盤

先輩の指導を謙虚に受けながら、職務を遂行するための基本的な知識や感覚を身につける。

先輩の指導を活か
な助言ができる。ま
での資質向上に努め

教育公務員としての自覚・
人権に関する確かな理解と豊
日々、「教育都市くまもとの

研修の場

OJT

初任校研修

初任者研修
熊本市教職員1年目研修
2年目研修
3年目研修

校内研修支援(パッケージ研修,指導主事派遣
研究委嘱・指定校
教育情報の配信

Off-JT

教育講演会,主任担当者研修,教科等研修
センター研修(情報教育担当者研修,幼児教育

SD

教師塾「き

研修施設派遣,先進校派遣,教育情報の配
センター研修(教科等教育,特別支援教育,教

しての教職員研修体系

10年)

力を伸ばす

とする意欲と実
同僚と連携しな
行する力を身に

することによっ
な知識や技能を
力を伸ばす。

し、後輩へ適切
た、専門職とし
る。

充実・発展期(11～20年)

自らの専門性を高め
リーダーとしての力を伸ばす

リーダーとして高度な知識・技能の
習得を自覚し、後輩の育成に努めると
ともに、組織全体について課題を精査
し、工夫改善の意欲をもって、チーム
で業務を遂行する力を身につける。

自らの実践を省察することによって、
高度な知識や技能の習得を自覚し、リー
ダーとして効果的に実践できる。

後輩の手本となるとともに、後輩の
発言や行動について適切に助言を行う。
また、専門職としての自覚を高める。

発展・円熟期(21年～)

全校的な視野に立って
リードする力をつける

指導者・管理職として、全校的視野
に立った企画力・経営力、学校内外の
能力や資源を開発・活用する力を身に
つける。

全校的な視野・人材育成の視点に立っ
て省察し、高度な知識や熟練した技能
を活かして、教職員の力量形成を支援・
指導する。

後輩の手本となるとともに、後輩の
発言や行動について適切に助言・指導
を行う。また、学校全体の風土の醸成
に尽力する。

規範意識を持ち、法令等を遵守し、誠実かつ公正に職務を遂行する。
かな人権感覚を身につけ、状況に応じた的確な行動・発言を行う。
教職員像」を意識し、その具現化に努める。

)、ステップアップサポーター・学力向上支援員派遣、
・研究モデル校、

10
年
経
験
者
研
修

15
年
経
験
者
研
修

20
年
経
験
者
研
修

など課題別研修，指導改善研修，
研修)

新任管理職研修

らり」(塾生の養成・師範の養成)

信，
育の情報化，カウンセリング，授業づくり，心のリラックス)

■校外研修（Off-JT）における経年者研修

講座名	研修の目的		
初任校研修	「教育都市くまもとの教職員像」を意識し、その具現化に努める。 - 基礎的、基本的指導力を習得し先輩の指導を受けながら、組織の一員として誠実に職務を遂行する力を身につける。	初任者研修	教職員としての基礎基本
		熊本市教職員1年目研修（初任者研修修了者）	教職員としての資質や能力と幅広い知見
		初任校（2年目）研修	主に学級経営、保健室経営、給食室経営の基礎基本について
		初任校（3年目）研修	主に学習指導に関する指導技術の向上
10年経験者研修	向上期における自ら身につけた力を振り返るとともに、充実・発展期における「マネジメント力」「実践的指導力」「教師としての基盤」を具体的に意識する。		
15年経験者研修	充実・発展期における「マネジメント力」「実践的指導力」「教師としての基盤」を確実に身につける。		
20年経験者研修	充実・発展期における自ら身につけた力を振り返るとともに、発展・円熟期における「マネジメント力」「実践的指導力」「教師としての基盤」を身につける。		
新規臨採研修	- 熊本市教育公務員としての自覚 - 学校経営重点計画を活かした課題解決 - キャリアステージの意識化と自己課題の解決		
2年目臨採研修			
3年目臨採研修			
班別臨採研修（4年以上）			

社会体験研修は、教育現場とは異なる職場で働く人々の勤労意識に学び、社会人としての在り方を考えることを目的とし、初任者研修で3日間、10年経験者研修で2日間行っている。

（注）平成28年度は、初任者研修・10年経験者研修ともに、熊本地震のため、避難所対応等の復興支援活動、もしくは民間事業所における2日間の研修を選択して行った。

■新任管理職研修

◇事業の目的

新任の学校管理職に対して、事例研修や講話・演習等を取り入れた研修を実施し、学校管理職としてのスキルや資質・力量を高めるとともに、実践的かつ総合的な学校経営力の向上を図るために、平成26年度から職能研修として開講された。

平成26年度は、市校長会・教頭会の支援のもと、学校問題事例研究発表会を開催するとともに研究発表会の成果等をまとめた新任管理職研修テキスト（学校問題事例集）を作成し、全管理職に配布した。

◇平成27年度の実績（研修生：新任校長39人、新任園長3人、新任教頭50人）

年間7回の研修（悉皆研修3回、トワイライト研修3回、学校問題事例研究発表会1回）を実施した。

◇平成28年度の事業（研修生：新任校長27人、新任園長3人、新任教頭34人）

・研修講座7回

講話・演習 （心構え、学校経営重点計画の活用、危機管理体制、人事評価等）	5回 （新任校長・園長・新任教頭別研修2回含む） （悉皆研修3回、トワイライト研修2回）
講演会・学校問題事例研究発表会 午後：講演会 「リーダーシップとマネジメント」 「教育都市くまもとの教職員像とリーダーシップ」 学校問題事例研究発表会	1回（新任校長・園長・新任教頭別） 新任校長園長1回（全幼・小・中・高等・専門学校校長園長参加） 新任教頭対象1回（全小・中・高校・専門学校教頭参加）
学校問題事例研究発表会に向けて	1回（トワイライト研修）

・新任管理職研修テキスト（学校問題事例集）の作成

（注）平成28年度は、熊本地震の影響で研修回数を見直し。

■教師塾「きらり」

◇事業の目的

教師の授業力向上と「学び続ける教員」としての資質を育成することを目的にして、平成24年度から開講された。採用4年目から10年目までの幼稚園及び小中高等学校教諭・養護教諭を対象とした希望研修であり、塾生は1年間の研修を受ける。塾生は、経験豊かで優れた授業力をもつ師範による「指導授業」や全国的に著名な実践家による「講師招聘授業」を参観する。また、研究授業を公開したり、実技講座を受講したりする。それらの活動をとおして授業の実践的指導力やそれを支える理論を学ぶ。

平成26年度は、先輩塾生による講座と研究発表会を開催し、教師塾修了生が自主的に学び合い、自らの実践を報告する場を設けた。さらに、市外の先進校・研究実践校に学ぶための先輩塾生8人の派遣研修を実施した。

平成27年度は、師範7人と塾生9人の派遣研修を実施した。



<平成27年度の実績（塾生28人）>

特別講師招聘授業	2回
外部講師による講話・模擬授業	6回
師範の指導授業	30回
塾生の研究授業	90回
実技講座	10回
二・三期生による実践・研究発表会	1回
先輩塾生向け特別講座	1回
派遣研修	16人

<平成28年度の事業（塾生20人）>

特別講師招聘授業	2回
外部講師による講話・模擬授業	6回
師範の指導授業	20回
塾生の研究授業	40回
実技講座	9回
派遣研修	11人程度

⑤教育の情報化の推進

■各教科における効果的なICT活用の推進

学校にコンピュータやインターネット等が使えるICT（情報通信技術）環境を整備するとともに、熊本市地域教育情報ネットワークシステム（通称：e-net）を活用して、教育の情報化を進めている。また特に、ICT活用による「わかる授業」を目指し、「かわる」をキーワードにして、「授業がかわる」「子どもがかわる」「学校がかわる」の3つの側面から教育の情報化に取り組んでいる。

◇授業がかわる（ICTを活用した「わかる授業」の実現、ICTで築く確かな学力）

教員の指導力の向上を図り、創意工夫した質の高い授業を実現する。

◇子どもがかわる（情報活用能力・情報モラルの育成）

信頼性のある情報、必要な情報を収集し、判断して活用できる能力を育てる。学校と家庭が連携・協力して、情報モラル教育を推進する。

◇学校がかわる（校務の情報化、学校と家庭・地域との連携等）

各学校ホームページを活用し、学校の情報を家庭や地域等に発信する。

個人情報保護のためのセキュリティ対策を行い、校務の効率化のために情報化を推進する。

■整備方針

平成10年度から平成14年度の5年間で、国庫補助制度等を活用し、小中学校のコンピュータ室及び機器の整備を行い、平成14年度から授業におけるコンピュータ機器の活用を本格化している。これに併せて、平成14年度から平成16年度までの3ヵ年で全小中学校に校内LANの整備を進め電源の確保に伴う改修工事等を行うとともに、教材提示用のコンピュータ及びプロジェクタを配備した。なお、コンピュータ機器については、整備計画に基づき更新を行っている。

◇教育センター 熊本市地域教育情報ネットワークの中心施設として整備（各種サーバ設置 ICT研修室整備、ICT支援室の設置等）

◇小学校 コンピュータ室20台、図書室2台、職員室1台、校内LAN構築（電子黒板を1台、デジタルテレビを3学級に1台配置、プロジェクタを3学級に1台配置。職員室LAN構築。特別支援学級を設置する学校に1台パソコン配置。教員用パソコン一人1台の配備）

◇中学校 コンピュータ室40台、図書室2台、職員室1台、校内LAN構築（パソコンを通常学級に各1台、電子黒板を1台、デジタルテレビを3学級に1台配置、プロジェクタを3学級に1台配置。職員室LAN構築。特別支援学級を設置する学校に1台パソコン配置。教員用パソコン一人1台の配備）

■ICT環境充実事業

ICTを活用した授業推進モデル校（小学校1校、中学校1校）の特別支援学級においてタブレット端末を活用し、児童生徒の視覚情報に訴えるなど、個々の障がいや特性に応じたより効果的な学習モデルの研究検証を行う。

■熊本市地域教育情報ネットワークシステムにおける主な提供システム

◇教材及び教育情報等の配信システム

- ・教育センターホームページのリニューアルによる教育情報提供システムの改善
- ・「わかる授業」のためのデジタル教材開発及び提供
- ・「情報モラルの授業」「わたしたちの熊本」をはじめ、役に立つ教育情報の提供
- ・「先生ちゃんねる」などの動画による、OJTに役立つ資料の提供

◇図書管理・検索システム

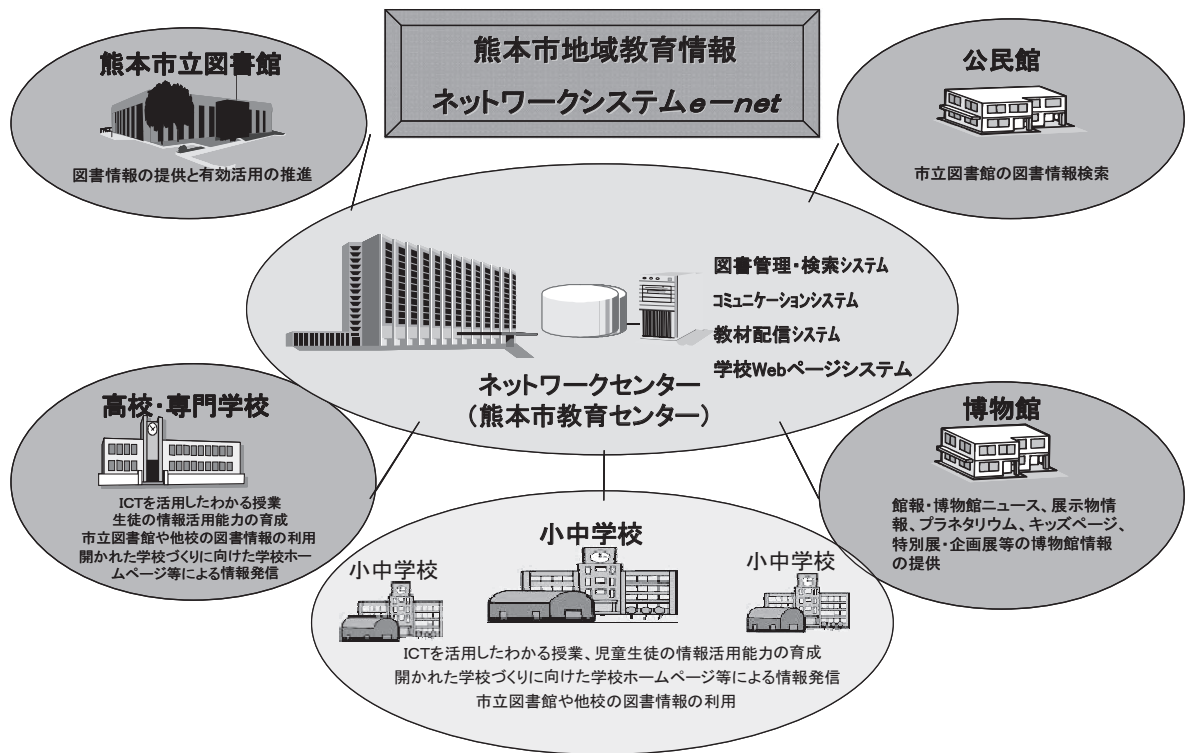
- ・学校図書館の蔵書情報の一元管理及び学校間における図書の有効活用の推進
- ・各学校図書のバーコードによる貸出、返却システム導入による省力化の推進

◇学校Webページシステム

- ・開かれた学校づくりとしてのさまざまな学校情報の提供
- ・校長の決裁による即時更新システム

◇ゆうnetシステム、e-netメール

- ・グループウェアによる学校内外との情報の共有化の推進
- ・電子メールによる校務の効率化の推進
- ・会議室の活用



⑥教員のスキルアップ、サポートの充実

■研修の充実（ICTを活用した「わかる授業」の実現）

<研修概要>

- ・新転採管理職への情報化研修（新・転採校長、教頭）
- ・情報教育担当者研修（各校1人半日講座）
- ・ICTを活用した授業づくり研修（各校1人半日講座）
- ・情報モラル教育推進リーダー研修会（各校1人半日2回）
- ・熊本市情報モラル教育セミナー（各校2人半日講座）
- ・ICT活用研修（希望者）4講座
- ・トワイライト研修（教科指導におけるICT活用、児童生徒の情報活用能力の育成）9講座
10日
- ・小・中・高等学校の保護者対象へのネットトラブルの現状と対策研修（1講座）
- ・パッケージ研修によるICT活用の校内研修支援

■研究・開発の充実（ICTを活用した授業づくり、児童生徒の情報活用能力の育成）

<研究概要>

- ・地域教育情報ネットワークシステムの冗長化
- ・「わかる授業」のためのデジタル教材開発
- ・教育情報提供システムの開発（動画番組「先生ちゃんねる」「情報モラルの授業」等）
- ・情報モラル教育カリキュラム開発と推進
- ・研究指定校（ICT活用）による研究
- ・研修プログラムの研究開発
「ICTを活用した授業づくり研修開発」
「児童生徒の情報活用能力育成のための研修開発」

■サポート体制の充実（「わかる授業」の実現のためのICT支援員による支援の充実）

＜支援概要＞（ICT支援員（10人）学校担当及び教材作成担当制）

- ・授業支援
- ・校内研修支援
- ・校内LAN活用支援
- ・ネットワーク管理
- ・電話等問い合わせ支援、障害・トラブルへの出前対応
- ・授業用デジタル教材作成
- ・指導案のデータベース化等校務のICT化支援

学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果（平成27年3月現在）

（単位：％）

＜コンピュータ整備の実態等＞

	教育用コンピュータ1台当たり児童生徒数				普通教室のLAN整備率			
	合計	小学校	中学校	高等学校	合計	小学校	中学校	高等学校
全国平均	6.4	7.2	5.0	5.0	86.4	84.8	83.7	94.2
熊本県	5.4	7.2	6.4	3.6	93.6	93.7	92.4	96.1
熊本市	12.7	16.9	9.7	3.8	100.0	100.0	100.0	100.0

＜教員のICT活用指導力の状況＞

	A 教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力				B 授業中にICTを活用して指導する能力				C 児童・生徒のICT活用を指導する能力			
	合計	小学校	中学校	高等学校	合計	小学校	中学校	高等学校	合計	小学校	中学校	高等学校
全国平均	82.1	83.2	79.7	83.1	71.4	74.4	67.2	70.7	65.2	68.8	59.3	67.0
熊本県	87.2	89.1	84.8	85.5	79.1	81.8	75.6	76.2	69.8	72.3	63.0	72.1
熊本市	84.7	87.1	81.2	78.3	75.7	78.7	71.4	62.5	63.4	68.0	55.9	56.3

	D 情報モラルなどを指導する能力				E 校務にICTを活用する能力			
	合計	小学校	中学校	高等学校	合計	小学校	中学校	高等学校
全国平均	77.7	81.3	74.6	78.3	78.2	78.6	76.2	81.5
熊本県	83.8	86.7	80.9	82.7	81.5	81.9	78.6	83.7
熊本市	82.7	85.1	78.5	82.8	77.2	79.1	74.4	71.4

（３）健やかな体を育む教育の推進

生涯にわたって健康的な生活を送ることができるよう、基本的な生活習慣の定着、運動の習慣化や食育の推進など、子どもたちの健康増進や体力の向上に努めます。

①健康で規則正しい生活習慣の育成

児童生徒が、健やかな学校生活を送るとともに、生涯にわたって健康的な生活習慣を身につけることができるように、家庭や地域及び関係機関等と連携しながら健康で規則正しい生活習慣の育成を図ります。

■性に関する指導

性に関する正しい判断と行動ができる児童生徒の育成とともに指導者の養成及び指導力の向上を

目指している。平成16年3月に発刊した熊本市の性教育《指導案集》の見直しを行い、平成26年3月には熊本市の性に関する指導《指導案集》を発刊した。

○平成27年度実績

- ・性に関する指導第一次研修会（実践発表、講演）：参加者172人
- ・性に関する指導第二次研修会（小中学校授業研究会）：参加者277人

■喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育

喫煙、飲酒、薬物乱用の危険性や有害性を認識させる教育を推進し、指導者の養成及び指導力の向上を目指す。

○平成27年度実績

- ・各小中高等学校における喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室の開催：実施校138校（分校を含む）
- ・指導者研修会の開催：参加者151人

■健康診断

現在の子どもたちを取り巻く生活環境の変化に伴う運動量の減少や不規則な食生活、肥満傾向児童生徒の増加など多くの課題を抱える中、健康管理と自己管理能力を育てるために健康診断を行っている。

■望ましい生活習慣の育成

○小児生活習慣病予防検診

小児期の肥満は成人の肥満に移行する確率が高いといわれている。また、その成人の肥満が生活習慣病の大きな危険因子であることから、小児期の肥満に早期に対応し、意識の高揚を図るため、小学4年生の肥満度20%以上の児童に対して、検診と保護者への指導を実施している。

	小4児童数 (A)	肥満度20%以上の 児童数 (B)	肥満度20%以上の 児童割合 (B/A)	受診児童数 (C)	受診した児童の 割合 (C/B)
平成23年度	6,951人	572人	8.23%	301人	52.6%
平成24年度	6,924人	650人	9.39%	328人	50.5%
平成25年度	6,783人	589人	8.71%	314人	53.3%
平成26年度	6,773人	602人	8.89%	321人	53.3%
平成27年度	6,525人	526人	8.06%	273人	51.9%

○生活習慣改善パンフレットによる指導と啓発

次年度小学校入学予定者に対し、就学時健康診断時において、生活習慣改善啓発パンフレットを配付し、基本的な生活習慣について啓発している。また、児童生徒へは、生活習慣改善啓発パンフレットを活用した指導を推進している。

○健康手帳の活用

肥満傾向にある子どもに対し、健康手帳を活用することによって、家庭と連携した指導を行い、小児生活習慣病の減少を目指している。

②体力づくりの推進

生涯を通じて運動に親しみ、健康で安全な活力ある生活を送るために、適切な運動・調和の取れた食事・十分な休養睡眠の「健康3原則」の観点から、幅広い体力向上の推進に努めている。

■いきいき健康づくりプログラムの活用

子どもたちの体力向上を図るプログラムを策定し、その内容を各学校に紹介し、各々の学校が主体的に体力向上の実践に取り組んでいく。

○プログラムの内容

<教科体育及び教科外体育等での取組>

- ・教科体育
- ・教科外体育
- ・教具等の工夫

<健康な生活に関する取組>

- ・健康な生活習慣に関する指導例
- ・調和のとれた食事

<家庭との連携・啓発に関する取組>

■体力向上推進校の指定

児童生徒の体力向上を目的とする「子どもの健康づくり・体力向上推進事業」の一環として、体力向上実践校を指定し、用具等を整備しながら体力向上に取り組んできた。また、平成22年度から体力向上実践校の中で特色ある取り組みを実践した小中学校1校ずつをモデル校として指定し、実践的な取り組みの普及を目的に研修会を実施した。

平成26年度から子どもの体づくり推進委員会と連携協力した体力向上のための実践検証作業及び運動環境の充実を図っている。

○平成27年度体力向上推進実証校（小学校3校、中学校2校）

託麻南小学校、隈庄小学校、小島小学校

江原中学校、錦ヶ丘中学校

さらに平成28年度からスポーツ庁委託事業「子供の体力向上課題対策プロジェクト」を受けて、小学校3校をモデル校に指定し、教育委員会を中心に体育・スポーツに係る専門性を有する団体等が連携して、多彩な人材を効果的に活用する取り組みを展開する。

○子供の体力向上課題対策プロジェクトモデル校

慶徳小学校、白坪小学校、託麻南小学校



白坪小のなわとびセンシングの様子

■総合運動部の設置推進

種々の運動を経験できる総合運動部の設置を推進する。

平成27年度設置小学校数 26校

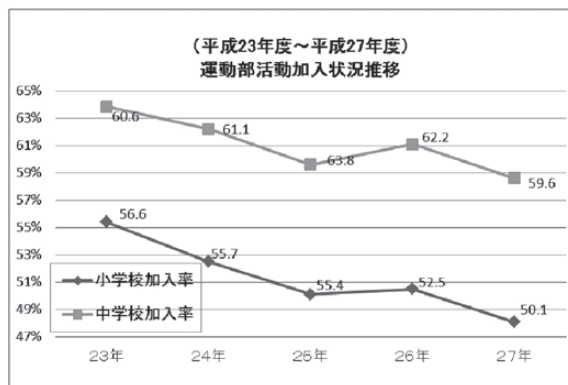
■運動部活動の適正な推進

運動部活動は、学校教育活動の一環として、体力の向上や健康の増進を図ることなどを目的とし設置されている。

○平成27年度運動部活動設置数

小学校 377部

中学校 453部



■熊本市わくわくチャレンジ長なわとびフェスタの実施

平成24年度から新たに体力向上を目的として、小学校を対象に「熊本市わくわくチャレンジ長なわとびフェスタ」を冬場の11月から翌年2月にかけて実施した。参加申請のあったクラス単位で「8の字跳び」を競い合い、学校賞及び各部門ランキング賞を表彰した

○参加学校数及び参加学級数

市内全学校数	参加学校数	参加率	うち全学級参加校数
94校	94校	100%	88校

○通常学級

チャレンジの部	市内全学級数	参加学級数	参加率
ランキングチャレンジ	1,366	647	約94%
目標達成チャレンジ		634	

○特別支援学級で参加 24学級参加

③食育の推進

健やかな心身の育成及び生涯を通じて望ましい食生活を実践する態度を養うために、安全でおいしく楽しい給食と食に関する豊かな情報を提供するとともに、家庭や地域社会及び関係機関等との連携・協力を図り、食育を推進する。

■学校給食の概要

○経緯

昭和22年に全小学校（26校）でミルク給食が始まり、昭和26年に小学校6校で、昭和48年には中学校でも完全給食を開始した。現在、全ての小学校（95校）・中学校（42校）と一つの幼稚園（隈庄幼稚園）で給食を実施している。

○米飯給食

昭和55年から導入し、平成5年から週3回実施。（内麦飯2回）

○献立

献立作成委員会において標準献立を作成し、幼稚園、小学校及び共同調理場（中学校）毎に標準献立を実施。

市産品を使用した「食育の日～ひごまるデー～」の献立や「味の旅」「児童生徒が考えた献立」の他、セレクト給食等、栄養バランスが取れた魅力あるおいしい献立を実施。

○物資の購入

おかずに関する物資・・・（公財）熊本市学校給食会による共同購入

パン、ご飯、牛乳等の基本物資・・・（公財）熊本県学校給食会から購入

○調理方式

・幼稚園	単独調理場方式	1園
・小学校	単独調理場方式	86校
	親子方式調理場	5校
	共同調理場方式	4校
・中学校	単独調理場方式	1校
	親子方式調理場	2校
	共同調理場方式	39校

○研修

給食技師研修会、給食技師調理研修会、学校給食関係者研修会、栄養教諭・学校栄養職員研修会、食育担当者等研修会、給食受入業務補助員研修会、新規採用・転任者給食関係職員研修会

■食に関する指導

望ましい食習慣や健康管理能力の育成を図るため、各校において食に関する指導に係る全体計画等を作成し、栄養教諭・学校栄養職員による専門性を活かした授業の実施や、学校給食の教材としての活用等、学校教育活動全体を通じて食に関する指導の推進を図っている。

■市産品の活用

平成12年度から関係課及び関係団体と連携して地域農産物の学校給食への導入を開始している。熊本市の農産物を紹介し、それを活用した給食を実施することで、地元の農業と農作物に対する児童生徒の理解を図っている。

○平成27年度導入品目数（36品目）

れんこん、すいか、みかん、米、ピーマン、せり、ほうれんそう、青ねぎ、大豆（納豆、味噌、豆腐）、キャベツ、ナス、たまねぎ、レイシ、チンゲン菜、小松菜、たけのこ、水菜、いちご、甘藷、きゅうり、はるか、トマト、にら、晩柑、ブロッコリー、ネーブル、レモン、もやし、パセリ、スティックセニョール、不知火（でこぼん）、春日ぼうぶら、パプリカ、じゃがいも、京菜、きくらげ

■学校給食における衛生管理

学校給食衛生管理基準を遵守し適切な衛生管理を行い、食中毒の防止に努めている。調理従事者には、年1回の健康診断を行い、毎月2回の検便を実施するなど、調理従事者の健康状態の把握に努めている。また、長期休業期間中には、調理場内の清掃や害虫駆除を実施している。

学校給食事業安全衛生委員会では、衛生管理や作業中の事故防止等の点検と改善に努める他、保健所と緻密に連携をとり、衛生管理の徹底を図っている。

その他、計画的な施設面の改善充実によるドライシステムの導入など、衛生管理を強化している。

○ドライシステム導入の調理場（15共同調理場、35給食室）

託麻共同調理場、出水南共同調理場、藤園共同調理場、井芹共同調理場、東共同調理場、長嶺共同調理場、武蔵共同調理場、富合共同調理場、龍田共同調理場、城西共同調理場、植木共同調理場、西原共同調理場、城南共同調理場、日吉共同調理場、京陵共同調理場

桜木東小、北部東小、出水小、龍田小、託麻西小、山ノ内小、城西小、川尻小、健軍東小、春竹小、力合小、古町小、碩台小、砂取小、黒髪小、泉ヶ丘小、清水小、帯山西小、隈庄小、下益城城南中、春日小、御幸小、川上小、西里小、銭塘小、奥古閑小、田迎西小、池田小、秋津小、飽田西小、力合西小、長嶺小、託麻南小、画図小、龍田西小

※ ドライシステム：乾いた状態の床で作業が行え、床からの跳ね水による二次汚染の防止や湿度が高くないように室内環境に配慮した施設

■ふれあい給食

児童・生徒と地域の人々との会食を通して、学校給食についての理解と関心を深めるとともに、相互の心の交流を図ることにより、児童・生徒の心身の健全な育成を図ることを目的に「ふれあい給食」を実施している。参加者は、校区老人会、民生委員・児童委員、自治会、児童・生徒の祖父母などである。（平成27年度実績 実施校135校）



■熊本市わくわく楽しい給食作品展

給食への思いを表した作文や図画・ポスター、毛筆書写及び児童・生徒が考えた給食献立の作品を募集し、優秀な作品を展示している。給食献立の最優秀作品及び優秀作品については、給食記念日（1月24日）を含む1週間において全小・中学校で献立として実施し、給食への理解・関心を深め大変好評である。

○平成27年度 応募総数 2,513点

最優秀作品の実施献立

献立の部＜小学校＞



ご飯、野菜南蛮のりタルソース
豆腐の味噌汁、ぽんかん、牛乳

献立の部＜中学校＞



古代米とれんこんの混ぜご飯、海老入りかき玉汁、
あげなすのみそそばろあん、みかん、牛乳

■共同調理場の民間委託（調理、配送及び洗浄業務）

平成17年4月から2年間、藤園及び日吉共同調理場において調理業務等の民間委託をモデル的に実施し、平成18年8月に、評価委員会から「総合的に評価した結果、問題ない」という最終報告書が提出された。評価委員会の答申を受け、平成19年度から藤園及び日吉共同調理場については、民間委託の本格実施に取り組んだ。

その後、平成20年度に3施設（出水南、井芹及び長嶺共同調理場）、平成21年度に4施設（東、託麻、武蔵及び龍田共同調理場）、平成22年度に4施設（城西、西原、京陵及び城南共同調理場）が民間委託に移行し、平成11年度から民間委託に移行している富合共同調理場を含めると現在15施設（東、藤園、日吉、託麻（※1）、武蔵、出水南、井芹、長嶺、龍田、富合、植木、城西、西原、京陵及び城南共同調理場）が民間委託に移行している。

（※1）託麻共同調理場は、平成28年3月末で廃止となったが、熊本地震で稼働施設が不足したため、比較的被害の少なかった当該施設を同年5月6日に再開した。なお、平成29年4月1日をもって廃止とする。

■小学校給食室の民間委託（調理及び洗浄業務）

平成27年度に市内9校（出水南、白坪、御幸、託麻南、帯山、託麻東、長嶺、清水、高平台）、平成28年度に9校（城西、画図、託麻原、白山、尾ノ上、託麻西、川上、北部東、力合西）の小学校給食室が民間委託に移行している。

なお、民間委託による給食調理業務等については、教育委員会内に設置する「熊本市学校給食調理等業務委託評価委員会」において衛生管理・品質面・給食運営面・学校との連携等をチェックし評価を行い適切な運営に努める。

（４）社会の変化に対応した教育の推進

グローバル化や情報化の進展など社会の変化に対応できるよう、小学校からの外国語教育を充実させ、国際理解教育を推進するとともに、ICTの活用能力の向上を図ります。

①環境教育の推進

環境を大切にし、より良い環境づくりや環境の保全に配慮した望ましい行動がとれる人間を育成するために、児童生徒の発達段階に応じて、各教科等における環境にかかわる授業内容の充実や指導方法の工夫・改善に努める。

■水俣に学ぶ肥後っ子教室（旧こどもエコセミナー）

小学校5年生を対象に、水俣市の環境施設等を見学し、環境問題について正しく判断する態度を養うとともに、主体的に環境保全活動に取り組む態度の育成を図る。また、公害の原点である水俣病について、現地訪問を実施し訪問施設などでの体験を通して水俣病についての正しい理解を図る。

実績：平成22年度までは各校3年間に1度の実施であったが、23年度からは、全小学校で実施。平成24・26年度は松尾東小・松尾西小・松尾北小を除く全小学校で実施。ただし、松尾東小・松尾西小・松尾北小は、隔年ごとに5・6年生合同で実施。

訪問先：熊本県環境センター、水俣市立水俣病資料館、国立水俣病情報センター等

■学校環境緑化

学校では、子どもたちが緑の中で遊んだり、職員とともに草花等の植物を育てたりする体験活動や環境緑化活動を推進し、子どもたちに豊かな心を育む教育活動を展開している。

学校環境緑化活動を進めるために、熊本市及び熊本市地域みどり推進協議会と共催して学校環境緑化コンクールを実施している。

全日本学校関係緑化コンクール（過去5年間の表彰歴）

表彰年度	学校名	成 績
23年度	大江小	入 選 国土緑化推進機構理事長賞
	帯山中	特 選 文部科学大臣賞
24年度	池田小	準特選 国土緑化推進機構会長賞
	天明中	準特選 国土緑化推進機構会長賞
25年度	西原小	入 選 国土緑化推進機構理事長賞
	帯山中	特 選 文部科学大臣賞
26年度	託麻東小	特 選 文部科学大臣賞・日本放送協会会長賞
	桜木中	入 選 国土緑化推進機構理事長賞
27年度	西原小	特 選 文部科学大臣賞・日本放送協会会長賞
	白川中	入 選 国土緑化推進機構理事長賞

その他の全国表彰（過去5年間の表彰歴）

表彰年度	学校名	成 績
23年度	東町中	環境美化教育優良校等表彰 優良校
24年度	帯山中	環境美化教育優良校等表彰 優良校
27年度	帯山中	緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰

■学校版環境ISOの推進

自ら考え行動することで子どもたちにやさしい心情を育み、環境保全活動や環境問題の解決に向けて、意欲的にかかわろうとする意識や態度の育成を図るために、平成16年度から学校版環境ISOに取り組んでいる。

各学校においては、ISO14001（環境マネジメントシステム）に基づき、独自に定めた環境

についての宣言項目に沿って、環境負荷を小さくするための活動をP D C Aサイクル（宣言→行動→記録→見直し）の軌道に乗せながら、児童生徒、教職員及び地域が一体となって取り組む活動を行っている。

平成27年度実施校 小学校94校、中学校42校（全小中学校）

熊本県学校版環境ISOコンクール（過去5年間の表彰歴）

表彰年度	学校名	成績
23年度	飽田東小 桜木中	優秀賞
24年度	泉ヶ丘小 桜木中	優秀賞
25年度	桜木中	特別賞
	泉ヶ丘小 北部中	優秀賞
26年度	図画小 北部中	優秀賞
27年度	清水小 河内中	優秀賞

②国際教育の充実及び英語力の向上

国際社会に生きる日本人を育成するために、外国語活動の充実を図りながら、自国の伝統や文化を学ぶとともに、英語等の外国語の基礎やコミュニケーション能力を身に付け、異文化交流体験等を通じて相互の社会や文化・歴史等に対する理解を深める。

■英語指導者招致事業

総務省、外務省、文部科学省及び（財）自治体国際化協会の協力の下、「語学指導等を行う外国青年招致事業（JETプログラム）」により、昭和63年度から外国語指導助手（ALT）を招致しており、中学校・高校において日本人英語教員とのティーム・ティーチングによる英語指導に当たっている。

小学校においても、外国語活動や総合的な学習の時間における国際理解教育の一環として、積極的に英語とかかわる活動を取り入れ、平成19年度からは全小学校にALTを派遣している。また、平成28年度は、小学校において地域人材活用による外国語指導助手も6名配置している。

<ALTの配置状況>

年 度	小学校・中学校	高 校	地域人材	合 計
平成23年度	28人	1人	2人	31人
平成24年度	28人	1人	2人	31人
平成25年度	28人	1人	2人	31人
平成26年度	27人	1人	5人	33人
平成27年度	26人	1人	6人	33人
平成28年度	26人	1人	6人	33人

■日本語指導

帰国・外国人児童生徒等にセンター校（黒髪小学校、桜山中学校）での指導を中心とした日本語の指導、学習指導及び生活適応指導等を行い、学校の教育活動に対する支援を行うなど、小学校・中学校における帰国・外国人児童生徒等の教育の充実に努めている。

<日本語指導を受けた児童生徒数>

年 度	小学校	中学校	合 計
平成24年度	33人	13人	46人
平成25年度	45人	16人	61人
平成26年度	39人	22人	61人
平成27年度	42人	23人	65人
平成28年度（5月）	32人	10人	42人

■外国語教育の充実

- ・小学校段階における外国語活動の推進
- ・円滑な小・中・高等学校の接続を目指す英語教育の推進（英語教育強化地域拠点事業）
- ・英語教員の英語指導力向上（外部専門機関と連携した英語指導力向上事業）
- ・教育課程特例校での小・中連携による英語教育の推進（植木地区、富合地区）
- ・全5・6年担任へALTによるニュースレターの配布
- ・全中学校へのデジタル教科書の導入と活用
- ・熊本市スピーキングテストの実施
- ・ALTの効果的活用（イングリッシュキャンプ、ALT複数派遣による中学校スピーキングテストの実施、ALTプロジェクトマネージャーの設置）
- ・英語教育推進委員会及び英語教育推進リーダーによる英語教育推進研修会の開催
- ・国際交流員、地域人材の活用、国際交流関係諸団体との連携
- ・異文化交流体験の推進
- ・英語等の外国語の基礎や実践的コミュニケーション能力の育成

■熊本市・サンアントニオ市交換留学生（高校生）派遣及び受入事業

熊本市の高校生をサンアントニオ市に派遣、またサンアントニオ市の高校生を熊本市に受入することにより、生徒間の国際理解を促進するとともに、国際社会に貢献できる人材の育成並びに両市民の友好親善及び相互理解を進める。

○派遣

- ・期 間 平成28年8月から平成29年6月
- ・対 象 熊本市立必由館高校から2人、熊本市立千原台高校から2人
- ・留 学 先 セントアンソニー高校へ2人、インカーネートワード高校へ2人
- ・事業開始 平成4年度

○受入

- ・期 間 平成28年7月から平成28年11月
- ・対 象 セントアンソニー高校から2人、インカーネートワード高校から1人
- ・留 学 先 熊本市立必由館高校へ2人、熊本市立千原台高校へ1人
- ・事業開始 平成4年度

（５）まちづくりとの連携と郷土学習の推進

熊本の歴史や人々について学ぶ郷土学習を推進するとともに、地域の行事への参加を通して地域との交流や連携を深め、子どもたちのふるさとへの理解や誇りを育みます。

■郷土教育の推進

総合的な学習の時間や社会科の学習等を通して、「熊本城学習」の推進や外部講師を活用した授業の推進など、地域に学ぶ体験的な学習の充実を図っている。また、『郷土読本「夢の実現を～ふるさとくまもとの人々～」』は、旧富合町・城南町・植木町の人材・史跡・資料館等を含めた改訂版を平成24年7月に配布（小学校のみ）し、道徳教育熊本市郷土読み物資料「未来を拓く～輝く熊本の心～」と併せて、活用の充実をさらに図っている。

■総合的な学習の時間の推進

各学校が実態に応じて目標や学習内容を定め、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、生きる力を育成する時間である。

総合的な学習の時間の内容充実を図るため、授業づくりや教材開発に関する研修会等を開催している。

また、授業研究会における先進的な取組の周知や、実践事例集の活用指導等によって、市全体の学習内容の質的向上を図っている。



総合的な学習の時間の活動

平成26年度小学校における総合的な学習の時間のテーマ

学習内容 学年	国際理解	情報	環境	福祉・健康	地域	職業 生き方	平和	その他
小3年	31	45	31	18	82	13	0	60
小4年	27	49	40	66	41	46	0	47
小5年	15	52	85	22	47	17	4	44
小6年	27	41	18	19	49	53	86	51

学校総数 94校

平成26年度中学校における総合的な学習の時間のテーマ

学習内容 学年	国際理解	情報	環境	福祉・健康	地域	職業 生き方	平和	その他
中1年	3	18	21	15	23	33	2	6
中2年	4	16	9	13	17	35	17	3
中3年	4	18	14	16	15	36	4	7

学校総数 42校

平成27年度「外部講師の活用」（報償費活用のみ）

小学校	中学校	合計
598人（実施学校77校）	189人（実施学校37校）	787人（実施学校114校）